

【表紙】

【発行登録追補書類番号】 30 - 外1 - 153

【提出書類】 発行登録追補書類

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 令和2年7月10日

【会社名】 クレディ・アグリコル・コーポレート
 ・アンド・インベストメント・バンク
 (Crédit Agricole Corporate and Investment Bank)

【代表者の役職氏名】 マネージング・ディレクター・グローバル・マーケット
 ・ディビジョン
 (Managing Director Global Market Division)
 ベンジャミン・ランベール
 (Benjamin LAMBERG)

【本店の所在の場所】 フランス国、モンルージュ・セデックス、92547 CS 70052
 レ・ゼタジュニ広場 12番地
 (12, place des Etats-Unis CS 70052
 92547 Montrouge Cedex
 France)

【代理人の氏名又は名称】 弁護士 福田 直 邦

【代理人の住所又は所在地】 東京都千代田区大手町一丁目1番1号
 大手町パークビルディング
 アンダーソン・毛利・友常法律事務所

【電話番号】 03-6775-1000

【事務連絡者氏名】 弁護士 岡 田 春 奈
 弁護士 田 村 将 人
 弁護士 後 藤 大 智

【連絡場所】 東京都千代田区大手町一丁目1番1号
 大手町パークビルディング
 アンダーソン・毛利・友常法律事務所

【電話番号】 03-6775-1453
 03-6775-1552
 03-6775-1606

【発行登録の対象とした
 売出有価証券の種類】 社債

【今回の売出金額】 699万米ドル（円貨換算額7億5,275万3,100円）
 （株式会社三菱UFJ銀行が発表した2020年7月8日現在の東京外国
 為替市場における対顧客電信直物売買相場の仲値1米ドル=107.69円
 の換算レートで換算している。）

【発行登録書の内容】

提出日	平成30年8月24日
効力発生日	平成30年9月3日
有効期限	令和2年9月2日
発行登録番号	30 - 外1
発行予定額又は発行残高の上限	発行予定額 5,000億円

【これまでの売出実績】
 （発行予定額を記載した場合）

番号	提出年月日	売出金額	減額による 訂正年月日	減額金額
30 - 外1 - 1	平成30年 9 月 4 日	795,900,000円		該当事項なし
30 - 外1 - 2	平成30年 9 月 4 日	511,880,000円		該当事項なし
30 - 外1 - 3	平成30年 9 月 7 日	213,882,600円		該当事項なし
30 - 外1 - 4	平成30年 9 月12日	10,186,286,000円		該当事項なし
30 - 外1 - 5	平成30年 9 月28日	345,000,000円		該当事項なし
30 - 外1 - 6	平成30年 9 月28日	1,137,400,000円		該当事項なし
30 - 外1 - 7	平成30年10月 1 日	1,360,000,000円		該当事項なし
30 - 外1 - 8	平成30年10月 5 日	174,000,000円		該当事項なし
30 - 外1 - 9	平成30年10月 5 日	231,726,600円		該当事項なし
30 - 外1 - 10	平成30年10月25日	278,682,560円		該当事項なし
30 - 外1 - 11	平成30年10月26日	310,000,000円		該当事項なし
30 - 外1 - 12	平成30年10月26日	830,000,000円		該当事項なし
30 - 外1 - 13	平成30年10月30日	860,000,000円		該当事項なし
30 - 外1 - 14	平成30年11月 8 日	1,119,000,000円		該当事項なし
30 - 外1 - 15	平成30年11月 8 日	930,000,000円		該当事項なし
30 - 外1 - 16	平成30年11月30日	754,920,000円		該当事項なし
30 - 外1 - 17	平成30年11月30日	100,000,000円		該当事項なし
30 - 外1 - 18	平成30年11月30日	805,000,000円		該当事項なし

30 - 外1 - 19	平成30年12月 6 日	1,000,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 20	平成30年12月12日	6,412,076,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 21	平成30年12月14日	500,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 22	平成30年12月14日	164,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 23	平成30年12月14日	666,129,555円	該当事項なし
30 - 外1 - 24	平成31年 1 月 8 日	1,003,711,380円	該当事項なし
30 - 外1 - 25	平成31年 1 月10日	410,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 26	平成31年 1 月15日	3,117,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 27	平成31年 1 月15日	3,830,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 28	平成31年 1 月21日	172,900,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 29	平成31年 1 月25日	491,920,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 30	平成31年 1 月25日	273,623,460円	該当事項なし
30 - 外1 - 31	平成31年 1 月31日	1,168,812,960円	該当事項なし
30 - 外1 - 32	平成31年 2 月 1 日	508,714,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 33	平成31年 2 月 4 日	6,151,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 34	平成31年 2 月 4 日	4,633,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 35	平成31年 2 月 6 日	10,666,131,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 36	平成31年 2 月 8 日	250,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 37	平成31年 2 月20日	400,000,000円	該当事項なし

30 - 外1 - 38	平成31年 2 月21日	249,125,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 39	平成31年 2 月22日	980,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 40	平成31年 2 月28日	739,160,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 41	平成31年 3 月 8 日	3,462,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 42	平成31年 3 月 8 日	2,310,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 43	平成31年 3 月19日	665,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 44	令和元年 5 月31日	1,130,737,500円	該当事項なし
30 - 外1 - 45	令和元年 6 月 7 日	144,150,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 46	令和元年 6 月10日	750,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 47	令和元年 6 月17日	194,250,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 48	令和元年 6 月19日	512,224,090円	該当事項なし
30 - 外1 - 49	令和元年 6 月20日	580,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 50	令和元年 6 月21日	10,262,670,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 51	令和元年 6 月28日	1,105,933,950円	該当事項なし
30 - 外1 - 52	令和元年 6 月28日	248,430,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 53	令和元年 7 月 2 日	5,036,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 54	令和元年 7 月 2 日	307,743,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 55	令和元年 7 月 4 日	473,145,280円	該当事項なし
30 - 外1 - 56	令和元年 7 月 5 日	570,000,000円	該当事項なし

30 - 外1 - 57	令和元年 7 月10日	92,820,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 58	令和元年 7 月10日	215,159,850円	該当事項なし
30 - 外1 - 59	令和元年 7 月19日	2,006,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 60	令和元年 7 月22日	300,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 61	令和元年 7 月22日	1,435,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 62	令和元年 7 月24日	200,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 63	令和元年 7 月25日	141,200,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 64	令和元年 7 月30日	700,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 65	令和元年 9 月19日	185,250,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 66	令和元年 9 月20日	245,264,502円	該当事項なし
30 - 外1 - 67	令和元年 9 月20日	300,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 68	令和元年 9 月25日	300,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 69	令和元年 9 月30日	1,140,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 70	令和元年10月 2 日	1,014,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 71	令和元年10月 2 日	3,489,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 72	令和元年10月 4 日	300,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 73	令和元年10月 4 日	251,789,900円	該当事項なし
30 - 外1 - 74	令和元年10月17日	279,892,224円	該当事項なし
30 - 外1 - 75	令和元年10月17日	10,093,000,000円	該当事項なし

30 - 外1 - 76	令和元年10月17日	500,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 77	令和元年10月17日	2,398,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 78	令和元年10月17日	3,450,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 79	令和元年10月18日	1,528,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 80	令和元年10月21日	241,710,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 81	令和元年10月24日	300,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 82	令和元年10月25日	300,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 83	令和元年10月31日	918,206,840円	該当事項なし
30 - 外1 - 84	令和元年10月31日	300,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 85	令和元年11月 1 日	350,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 86	令和元年11月12日	475,099,500円	該当事項なし
30 - 外1 - 87	令和元年11月15日	1,600,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 88	令和元年11月29日	949,428,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 89	令和元年11月29日	325,105,200円	該当事項なし
30 - 外1 - 90	令和元年12月 6 日	870,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 91	令和元年12月 6 日	400,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 92	令和元年12月12日	2,965,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 93	令和元年12月16日	2,300,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 94	令和元年12月20日	247,050,000円	該当事項なし

30 - 外1 - 95	令和2年1月7日	924,545,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 96	令和2年1月10日	2,086,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 97	令和2年1月10日	4,568,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 98	令和2年1月16日	283,497,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 99	令和2年1月16日	184,250,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 100	令和2年1月17日	221,413,984円	該当事項なし
30 - 外1 - 101	令和2年1月22日	1,910,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 102	令和2年1月22日	1,527,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 103	令和2年1月22日	11,925,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 104	令和2年1月27日	221,400,522円	該当事項なし
30 - 外1 - 105	令和2年1月28日	2,500,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 106	令和2年1月30日	185,750,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 107	令和2年1月31日	709,747,500円	該当事項なし
30 - 外1 - 108	令和2年1月31日	500,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 109	令和2年1月31日	496,440,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 110	令和2年2月3日	500,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 111	令和2年2月6日	259,805,700円	該当事項なし
30 - 外1 - 112	令和2年2月6日	300,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 113	令和2年2月7日	3,171,000,000円	該当事項なし

30 - 外1 - 114	令和2年2月7日	756,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 115	令和2年2月7日	7,003,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 116	令和2年2月7日	161,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 117	令和2年2月10日	476,190,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 118	令和2年2月10日	556,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 119	令和2年2月14日	1,500,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 120	令和2年2月17日	450,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 121	令和2年2月18日	1,700,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 122	令和2年2月19日	214,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 123	令和2年2月19日	549,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 124	令和2年2月19日	336,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 125	令和2年2月19日	107,390,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 126	令和2年2月21日	780,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 127	令和2年2月21日	251,793,360円	該当事項なし
30 - 外1 - 128	令和2年2月27日	168,600,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 129	令和2年2月28日	291,157,800円	該当事項なし
30 - 外1 - 130	令和2年2月28日	620,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 131	令和2年3月6日	1,705,000,000円	該当事項なし
30 - 外1 - 132	令和2年3月6日	3,780,000,000円	該当事項なし

30 - 外1 - 133	令和2年5月8日	300,000,000円	該当事項なし	
30 - 外1 - 134	令和2年5月8日	500,000,000円	該当事項なし	
30 - 外1 - 135	令和2年5月8日	994,140,000円	該当事項なし	
30 - 外1 - 136	令和2年5月15日	785,000,000円	該当事項なし	
30 - 外1 - 137	令和2年5月19日	409,000,000円	該当事項なし	
30 - 外1 - 138	令和2年5月19日	590,000,000円	該当事項なし	
30 - 外1 - 139	令和2年5月29日	1,205,915,800円	該当事項なし	
30 - 外1 - 140	令和2年6月9日	250,000,000円	該当事項なし	
30 - 外1 - 141	令和2年6月18日	300,000,000円	該当事項なし	
実績合計額		194,802,277,617円	減額総額	0円

(注1)「クレディ・アグリコル・コーポレート・アンド・インベストメント・バンク 2021年7月13日満期 円建 早期償還条項付 参照株式株価連動社債(GMOペイメントゲートウェイ株式会社)」(売出券面額の総額300,000,000円)の売出しを行うために、令和2年6月19日に発行登録追補書類(発行登録追補書類番号30-外1-142)を関東財務局長に提出したが、令和2年7月10日が当該社債の受渡期日であり、本書の提出日現在当該社債の受渡が完了していないため、上記金額を売出実績欄に加算することはしておらず、また下記残額から控除することはしていない。

(注2)「クレディ・アグリコル・コーポレート・アンド・インベストメント・バンク 2023年7月20日満期 判定価格逡減型期限前償還条項付 ノックイン条項付 他社株転換条項付 円建 デジタル・クーポン社債(キヤノン)」(売出券面額の総額500,000,000円)の売出しを行うために、令和2年6月19日に発行登録追補書類(発行登録追補書類番号30-外1-143)を関東財務局長に提出したが、令和2年7月20日が当該社債の受渡期日であり、本書の提出日現在当該社債の受渡が完了していないため、上記金額を売出実績欄に加算することはしておらず、また下記残額から控除することはしていない。

(注3)「クレディ・アグリコル・コーポレート・アンド・インベストメント・バンク 2023年8月2日満期 判定価格逡減型期限前償還条項付 ノックイン条項付 他社株転換条項付 円建 デジタル・クーポン社債(Zホールディングス)」(売出券面額の総額1,000,000,000円)の売出しを行うために、令和2年6月23日に発行登録追補書類(発行登録追補書類番号30-外1-144)を関東財務局長に提出したが、令和2年7月27日が当該社債の受渡期日であり、本書の提出日現在当該社債の受渡が完了していないため、上記金額を売出実績欄に加算することはしておらず、また下記残額から控除することはしていない。

(注4)「クレディ・アグリコル・コーポレート・アンド・インベストメント・バンク 2026年7月22日満期 トルコ・リラ建社債(グリーンボンド)」(売出券面額の総額11,500,000トルコ・リラ、円貨相当額179,170,000円)の売出しを行うために、令和2年6月24日に発行登録追補書類(発行登録追補書類番号30-外1-145)を関東財務局長に提出したが、令和2年7月22日が当該社債の受渡期日であり、本書の提出日現在当該社債の受渡が完了していないため、上記金額を売出実績欄に加算することはしておらず、また下記残額から控除することはしていない。

(注5)「クレディ・アグリコル・コーポレート・アンド・インベストメント・バンク 2022年1月14日満期 早期償還条項付 他社株式株価連動 円建社債(株式会社キーエンス)」(売出券面額の総額300,000,000円)の売出しを行うために、令和2年6月24日に発行登録追補書類(発行登録追補書類番号30-外1-146)を関東財務局長に提出したが、令和2年7月14日が当該社債の受渡期日であり、本書の提出日現在当該社債の受渡が完了していないため、上記金額を売出実績欄に加算することはしておらず、また下記残額から控除することはしていない。

(注6)「クレディ・アグリコル・コーポレート・アンド・インベストメント・バンク 2027年7月30日満期トルコ・リラ建ゼロクーポン社債」(売出価額の総額71,955,000トルコ・リラ、円貨相当額1,125,376,200円)の売出しを行うために、令和2年6月30日に発行登録追補書類(発行登録追補書類番号30-外1-147)を関東財務局長に提出したが、令和2年7月30日が当該社債の受渡期日であり、本書の提出日現在当該社債の受渡が完了していないため、上記金額を売出実績欄に加算することはしておらず、また下記残額から控除することはしていない。

(注7)「クレディ・アグリコル・コーポレート・アンド・インベストメント・バンク 2021年7月30日満期 ノックイン型日経平均株価連動 円建社債」(売出券面額の総額2,380,000,000円)の売出しを行うために、令和2年7月2日に発行登録追補書類(発行登録追補書類番号30-外1-148)を関東財務局長に提出したが、令和2年7月31日が当該社債の受渡期日であり、本書の提出日現在当該社債の受渡が完了していないため、上記金額を売出実績欄に加算することはしておらず、また下記残額から控除することはしていない。

(注8)「クレディ・アグリコル・コーポレート・アンド・インベストメント・バンク 2026年8月6日満期 トルコ・リラ建社債(グリーンボンド)」(売出券面額の総額29,000,000トルコ・リラ、円貨相当額457,910,000円)の売出しを行うために、令和2年7月3日に発行登録追補書類(発行登録追補書類番号30-外1-149)を関東財務局長に提出したが、令和2年8月6日が当該社債の受渡期日であり、本書の提出日現在当該社債の受渡が完了していないため、上記金額を売出実績欄に加算することはしておらず、また下記残額から控除することはしていない。

(注9)「クレディ・アグリコル・コーポレート・アンド・インベストメント・バンク 2025年7月16日満期 日米2指数参照ステップダウン期限前償還条項付 日経平均株価・S&P500指数連動デジタルクーポン円建社債(グリーンボンド)」(売出券面額の総額1,050,000,000円)の売出しを行うために、令和2年7月9日に発行登録追補書類(発行登録追補書類番号30-外1-150)を関東財務局長に提出したが、令和2年7月16日が当該社債の受渡期日であり、本書の提出日現在当該社債の受渡が完了していないため、上記金額を売出実績欄に加算することはしておらず、また下記残額から控除することはしていない。

(注10)「クレディ・アグリコル・コーポレート・アンド・インベストメント・バンク 2023年7月28日満期 早期償還条項付(ステップダウン) ノックイン型 日経平均株価連動デジタルクーポン円建社債」(売出券面額の総額1,125,000,000円)の売出しを行うために、令和2年7月10日に発行登録追補書類(発行登録追補書類番号30-外1-151)を関東財務局長に提出したが、令和2年7月30日が当該社債の受渡期日であり、本書の提出日現在当該社債の受渡が完了していないため、上記金額を売出実績欄に加算することはしておらず、また下記残額から控除することはしていない。

(注11)「クレディ・アグリコル・コーポレート・アンド・インベストメント・バンク 2025年7月17日満期豪ドル建社債（グリーンボンド）」（売出券面額の総額20,280,000豪ドル、円貨相当額1,513,902,000円）の売出しを行うために、令和2年7月10日に発行登録追補書類（発行登録追補書類番号30-外1-152）を関東財務局長に提出したが、令和2年7月28日が当該社債の受渡期日であり、本書の提出日現在当該社債の受渡が完了していないため、上記金額を売出実績欄に加算することはしておらず、また下記残額から控除することはしていない。

【残額】 305,197,722,383円
 （発行予定額 - 実績合計額 - 減額総額）

（発行残高の上限を記載した場合）

番号	提出年月日	売出金額	償還年月日	償還金額	減額による訂正年月日	減額金額
該当事項なし						
実績合計額	該当事項なし	償還総額	該当事項なし	減額総額	該当事項なし	

【残高】 該当事項なし
 （発行残高の上限 - 実績合計額 + 償還総額 - 減額総額）

【安定操作に関する事項】 該当事項なし

【縦覧に供する場所】 該当事項なし

(注) 本書において、文脈上別段の記載または解釈がなされる場合を除き、「クレディ・アグリコル・CIB」および「CACIB」は、クレディ・アグリコル・コーポレート・アンド・インベストメント・バンクを指す。

第一部 【証券情報】

<クレディ・アグリコル・コーポレート・アンド・インベストメント・バンク 2025年7月17日満期米ドル建社債（グリーンボンド）に関する情報>

第1 【募集要項】

該当事項なし

第2 【売出要項】

1 【売出有価証券】

【売出社債(短期社債を除く。)]

銘柄	売出券面額の総額 又は売出振替社債 の総額	売出価額の総額	売出しに係る社債の所有者の 住所及び氏名又は名称	
クレディ・アグリコル・コーポレート・アンド・インベストメント・バンク 2025年7月17日満期米ドル建社債（グリーンボンド）（別段の記載がある場合を除き、以下「本社債」という。）(注1)	6,990,000米ドル (注2)	6,990,000米ドル (注2)	大和証券株式会社 (以下「売出人」という。) 東京都千代田区丸の内一丁目9番1号	
記名・無記名の別	各社債の金額	利率	利払日	償還期限
無記名式	1,000米ドル	年率0.52% (注3)	1月17日 および7月17日	2025年7月17日

(注1) 本社債は、ユーロ市場においてクレディ・アグリコル・コーポレート・アンド・インベストメント・バンク（以下「CACIB」または「クレディ・アグリコル・CIB」もしくは「発行会社」という。）の2020年5月7日付ストラクチャード・デット・インストルメンツ・イシューアンス・プログラム（その後の修正を含み、以下「本プログラム」という。）に基づき、2020年7月27日（以下「発行日」という。）に発行される。本社債が証券取引所に上場される予定はない。

(注2) 上記の売出券面額の総額および売出価額の総額は、ユーロ市場で発行される本社債の券面総額と同額となる。

(注3) 本社債の利息起算日は、2020年7月27日である。

(注4) 本社債につき、CACIBの依頼により、金融商品取引法第66条の27に基づく登録を受けた信用格付業者（以下「信用格付業者」という。）から提供され、または閲覧に供される信用格付（予定を含む。）はない。

なお、CACIBは、本書日付現在、ムーディーズ・インベスターズ・サービス（以下「ムーディーズ」という。）によりAa3の長期無担保優先債務格付が、S&Pグローバル・レーティング（以下「S&P」という。）によりA+の長期発行体格付が、フィッチ・レーティングス（以下「フィッチ」という。）によりA+の長期発行体デフォルト格付（およびAA-の上位優先債務格付）が、それぞれ付与されているが、これらの格付は直ちにCACIBにより発行される個別の社債に適用されるものではない。

ムーディーズ、S&Pおよびフィッチは、信用格付事業を行っているが、本書日付現在、信用格付業者として登録されていない。無登録格付業者は、金融庁の監督および信用格付業者が受ける情報開示義務等の規制を受けておらず、金融商品取引業等に関する内閣府令第313条第3項第3号に掲げる事項に係る情報の公表も義務付けられていない。

ムーディーズ、S&Pおよびフィッチについては、それぞれのグループ内に信用格付業者として、ムーディーズ・ジャパン株式会社（登録番号：金融庁長官（格付）第2号）、S&Pグローバル・レーティング・ジャパン株式会社（登録番号：金融庁長官（格付）第5号）およびフィッチ・レーティングス・ジャパン株式会社（登録番号：金融庁長官（格付）第7号）が登録されており、各信用格付の前提、意義および限界は、インターネット上で公表されているムーディーズ・ジャパン株式会社のホームページ（ムーディーズ日本語ホームページ（https://www.moodys.com/pages/default_ja.aspx）の「信用格付事業」のページ）にある「無登録業者の格付の利用」の「無登録格付説明関連」に掲載されている「信用格付の前提、意義及び限界」、S&Pグローバル・レーティング・ジャパン株式会社のホームページ（<http://www.standardandpoors.co.jp>）の「ライブラリ・規制関連」の「無登録格付け情報」（<http://www.standardandpoors.co.jp/unregistered>）に掲載されている「格付けの前提・意義・限界」およびフィッチ・レーティングス・ジャパン株式会社のホームページ

(<https://www.fitchratings.com/site/japan/>)の「フィッチの格付業務について」欄の「規制関連」セクションに掲載されている「信用格付の前提、意義及び限界」において、それぞれ公表されている。

2 【売出しの条件】

売出価格	申込期間	申込単位	申込証拠金	申込受付場所
額面金額1,000米ドルにつき 1,000米ドル	2020年7月14日から 同年7月22日まで	額面金額 1,000米ドル	なし	売出人および売出取扱人 (以下に定義する。)の 日本国内の本店および各 支店(注2)
売出しの委託を受けた者の住所、氏名又は名称			売出しの委託契約の内容	
O K B証券株式会社 岐阜県大垣市郭町二丁目25番地 (以下「売出取扱人」という。)			売出人は、売出取扱人に本社債の売出し の取扱いを委託している。	

(注1) 本社債の発行日は2020年7月27日、受渡期日は、2020年7月28日(日本時間)である。

(注2) 売出人および売出取扱人は、日本国の金融商品取引法第33条の2に基づく登録を受けた銀行等の金融機関および同法第66条に基づく登録を受けた金融商品仲介業者に、本社債の売出しの取扱業務の一部を行うことを委託することができる。

本社債の申込、購入および払込は、各申込人と売出人または売出取扱人との間に適用される外国証券取引口座約款に従ってなされる。各申込人は売出人または売出取扱人から、あらかじめ同約款の交付を受け、同約款に基づき外国証券取引口座の設定を申し込む旨記載した申込書を提出しなければならない。

外国証券取引口座を通じて本社債を購入する場合、同口座約款の規定に従い本社債の券面の交付は行わない。

(注3) 認可譲受人(下記「社債の概要 2 償還および買入れ (e) 規制償還または強制転売」に定義する。)に対し、認可譲受人の計算で、または認可譲受人のために、レギュレーションSに定義されるオフショア取引において、レギュレーションSに従って行うものを除き、いかなる場合でも、本社債を募集し、売却し、質入れし、またはその他の方法で譲渡してはならず、認可譲受人のみが本社債のポジションを保持することができる。

本社債は、合衆国税法の適用を受ける。一定の例外の下で、合衆国の税務規則により認められた一定の取引による場合を除き、合衆国もしくはその属領内において、または米国人に対して、米国人の計算で、もしくは米国人のために本社債を募集し、売却し、または交付してはならない。本段落において使用された用語は、1986年合衆国内国歳入法(その後の改正を含む。)および同法に基づいて公表された規制において定義された意味を有する。

本社債は、米国証券取引委員会または合衆国のいずれの州その他の管轄のいずれの証券規制当局にも登録または承認を受けておらず、今後受ける予定もない。1936年合衆国商品取引法(その後の改正を含み、以下「CEA」という。)およびCEAに基づく規則に基づき、CACIBの商品先物基金運営者として登録されており、または登録される予定がある者はいない。また、CACIBは1940年米国投資会社法(その後の改正を含む。)またはその他の合衆国の連邦法に基づき登録されており、また、登録される予定はない。さらに、上記当局は募集の実体面または本プログラムの正確性もしくは妥当性について判断または承認していない。これに反するいかなる表現も合衆国の刑事罰の対象である。

本社債は、米国証券取引委員会(以下「SEC」という。)または合衆国内の他の規制機関によって承認も不承認もされておらず、SECまたは合衆国内の他の規制機関は本プログラムの正確性もしくは妥当性または本社債の実体面について判断していない。これに反するいかなる表現も刑事罰の対象である。さらに、本社債は、CEAの対象となる商品の先渡し(またはそのオプション)を売却するための契約を構成せず、また、そのような契約として販売されていない。また、本社債の取引も本プログラムもCEAに基づき商品先物取引委員会によって承認されていない。

(注4) 本社債は、欧州経済領域(以下「EEA」という。)または英国(以下「UK」という。)におけるリテール投資家に対して募集され、売却され、またはその他の方法により入手可能とされることを意図したものではなく、また、募集され、売却され、またはその他の方法により入手可能とされてはならない。ここに「リテール投資家」とは、()指令第2014/65/EU号(その後の改正を含み、以下「第2次金融商品市場指令」という。)第4(1)条第11号において定義されるリテール顧客、()指令(EU)第2016/97号(その後の改正を含む。)にいう顧客であって、第2次金融商品市場指令第4(1)条第10号において定義される専門家顧客の資格を有していないものまたは()規則(EU)第2017/1129号(その後の改正を含む。)において定義される適格投資家ではない者のいずれか(またはこれらの複数)に該当する者をいう。そのため、EEAまたはUKにおけるリテール投資家に対して本社債を募集し、売却し、またはその他の方法により入手可能とすることに関して、規則(EU)第1286/2014号(その後の改正を含み、以下「PRIIPs規則」という。)によって要求される重要情報書面は作成されておらず、したがってEEAまたはUKにおけるリテール投資家に対して本社債を募集し、売却し、またはその他の方法により入手可能とすることは、PRIIPs規則に基づき不適法となる可能性がある。

社債の概要

1 利息

(a) 各本社債の利息は、上記「1 売出有価証券」に記載の利率で、利息起算日である2020年7月27日（同日を含む。）から2025年7月17日（同日を含まない。）までこれを付し、毎年1月17日および7月17日（以下、それぞれを「利払日」という。）に、利息起算日または直前の利払日（同日を含む。）から当該利払日（同日を含まない。）までの期間（以下、それぞれを「利息計算期間」という。）分を後払いする。各利払日に支払われる利息は、額面金額1,000米ドルの各本社債につき、2.60米ドルである。ただし、最初の利息の支払は、2021年1月17日に、2020年7月27日（同日を含む。）から2021年1月17日（同日を含まない。）までの期間について行われるものとし、その金額は、額面金額1,000米ドルの各本社債につき、2.46米ドルとする。

利払日が支払営業日（以下に定義する。）以外の日にあたる場合には、当該利払日に係る支払は翌支払営業日に行われる。当該利払日に支払われるべき利息額の調整は行われない。

「社債の概要」において、

「支払営業日」とは、代理契約（下記「14 その他（2）代理契約」に定義する。）の規定に従い、商業銀行および外国為替市場が、（ ）最終券面の場合、支払のための呈示の場所、（ ）ロンドンおよび（ ）ニューヨーク市において、支払決済および一般業務（外国為替および外貨預金の取扱いを含む。）を行っている日をいう。

本社債または利札に関する金額の支払のために特定される日付が、ある月において存在しない日にあたる場合（かかる支払が、2月29日のない年の当該日に行われる予定である場合を含むが、これに限定されない。）には、かかる本社債または利札の所持人は、代わりに当該場所におけるその直前の支払営業日に支払を受けることができる。

利息計算期間以外の期間についての利息を計算する必要がある場合、当該利息は、各本社債の未償還の額面金額に上記記載の利率を乗じ、その積に下記記載の算式により計算された当該期間（以下「計算期間」という。）の日数を360で除して得られた値（以下「日数調整係数」という。）を乗じた金額とする（ただし、0.01米ドル未満は四捨五入する。）。

$$\text{日数調整係数} = \frac{[360 \times (Y2 - Y1)] + [30 \times (M2 - M1)] + (D2 - D1)}{360}$$

上記の数式において、

「Y1」とは、計算期間の初日が属する年を数字で表したものをいう。

「Y2」とは、計算期間の末日の翌日が属する年を数字で表したものをいう。

「M1」とは、計算期間の初日が属する暦月を数字で表したものをいう。

「M2」とは、計算期間の末日の翌日が属する暦月を数字で表したものをいう。

「D1」とは、計算期間の初日にあたる暦日を数字で表したものをいう。ただし、かかる数字が31の場合、D1は30になる。

「D2」とは、計算期間に含まれる末日の翌日にあたる暦日を数字で表したものをいう。ただし、かかる数字が31であり、D1が29より大きい数字の場合、D2は30になる。

別段の定めがある場合を除き、「社債の概要」におけるすべての計算において、（ ）かかる計算により生じるすべてのパーセンテージは、必要に応じて0.00001パーセンテージ・ポイント未満を四捨五入し、（ ）すべての数値は有効数字7桁に四捨五入（8番目の有効数字が5以上の場合、7番目の有

効数字を切り上げる。)され、()すべての支払期限の到来した通貨は当該通貨単位(以下に定義する。)未満を四捨五入する。本項において、「通貨単位」とは、かかる通貨が使用されている国で、法定通貨として有効である最小の単位をいう。

(b) 利息の発生

本1項において別段の規定がない限り、各本社債の利息(もしあれば)は、償還日以降はこれをつさない。ただし、正当な呈示の下で元金の支払が不当に留保または拒絶された場合は、この限りでない。この場合、()当該本社債に関して支払われるべき金額の全額が支払われた日または()主支払代理人(下記「14 その他 (2) 代理契約」に定義する。)が当該本社債に関して支払われるべき金額の全額を受領し、かかる旨を本社債の所持人に対して、下記「9 通知」に従い通知した日の5日後の日のうちいずれか早く到来する日まで、利息が付されるものとする。

2 償還および買入れ

(a) 満期償還

下記の規定に従い期限前に償還または買入消却されない限り、各本社債は、CACIBにより、2025年7月17日(以下「満期日」という。)に米ドルにより額面金額(以下「満期償還価格」という。)で最終的に償還されるものとする。満期日が支払営業日以外の日にあたる場合には、満期日に係る支払は翌支払営業日に行われる。満期日に支払われるべき金額の調整は行われない。

(b) 税制変更による繰上償還

CACIBは、次の場合において、その選択により随時、30日以上60日以内の(取消不能の)通知を主支払代理人および下記「9 通知」に従い本社債の所持人に対して行うことにより本社債の全部(一部は不可)を償還できる。

() 本社債の発行が承認された日以後に変更または修正の効力が発生する、課税管轄地域(下記「8 課税上の取扱い (1) フランスの租税」に定義する。)の法律もしくは規則の変更もしくは修正により、またはかかる法律もしくは規則の適用もしくは公的な解釈の変更により、CACIBに本社債に基づく次回の支払期日において、下記「8 課税上の取扱い (1) フランスの租税」に規定する追加額の支払義務が生じる場合で、かつ、

() CACIBが合理的な手段を講じることによっても、かかる義務を回避することができない場合
ただし、かかる償還の通知はCACIBにかかる追加額の支払義務が生じる最初の日の90日前の日以前には行われないものとする。

本項(b)に従い償還される本社債は、公正市場償還価格(下記「(c) 特別税制償還」に定義する。)により償還される。

(c) 特別税制償還

CACIBが、下記「8 課税上の取扱い (1) フランスの租税」記載の追加額の支払に関する取り決めにもかかわらず、フランス法に基づき本社債の元利金の次回の支払の際に、期限が到来した金額の全額を本社債の所持人に支払うことを禁止される場合、CACIBは、直ちに主支払代理人に対しかかる事実を通知する。その上で、CACIBは、本社債の所持人に対し7日以内の事前通知を行うことにより、直ちに、本社債の全部(一部は不可)を公正市場償還価格でCACIBが本社債に関してその時点において期限の到来した金額の全額につき支払を行うことができる最終の利払日に、償還しなければならない。

ただし、当該通知の期間の経過がかかる利払日の経過後である場合、当該通知に基づく本社債の所持人に対する償還期限は、下記のいずれか遅くに到来する日とする。

() CACIBが、本社債に関し、その時点で期限が到来している全額の支払を行うことが実務的に可能な最終日

() 上記の主支払代理人に対する通知後14日目の日

「公正市場償還価格」は、償還日現在（またはその頃）の本社債の公正市場価格に等しいと計算代理人のその単独の絶対的な裁量により決定され、ヘッジ金額（以下に定義する。）の控除を考慮するが、それらに限定されず、二重の控除は行われない。ただし、以下を条件とする。

() CACIBに関して、下記「6 債務不履行事由」の(a)項または(c)項に定める債務不履行事由（下記「6 債務不履行事由」に定義する。）が発生し、継続している場合、かかる決定は、CACIBの財政状況を考慮しないものとする。

() 公正市場償還価格が下記「6 債務不履行事由」の(a)項または(c)項に定める債務不履行事由の発生以外の理由で決定され（このように決定された公正市場償還価格を以下「債務不履行前公正市場償還価格」という。）、CACIBに関して下記「6 債務不履行事由」の(a)項または(c)項に定める債務不履行事由が発生した日（以下「債務不履行後公正市場償還価格決定日」という。）において未払いである場合、債務不履行前公正市場償還価格は、債務不履行後公正市場償還価格決定日に決定された公正市場償還価格（以下「債務不履行後公正市場償還価格」という。）に相当するとみなされ、「債務不履行後公正市場償還価格」は上記()に従いCACIBの財政状況を考慮しないものとする。

() 公正市場償還価格は、負の金額とならないものとする。

本社債の公正市場価格を決定する際、計算代理人は関連するとみなすすべての情報（市場環境、および下記「(f) 違法性および不可抗力」による期限前償還の場合には、期限前償還を生じさせる実行不可能性、違法性または不可能性を含むが、これに限定されない。）を考慮する。

上記の規定に従い決定された公正市場償還価格は、未払経過利息に係る金額を考慮して決定され、したがって、本社債が公正市場償還価格の支払により償還される場合にはその他の未払経過利息の金額は支払われない。

本社債の期限前償還に関して、「ヘッジ金額」とは、かかるヘッジング契約がCACIBにより直接保有されているか関連会社（下記「14 その他 (5) 代理人 (b) 計算代理人」に定義する。）を通じて間接的に保有されているかを問わず、当該本社債に関連して締結された関連するヘッジング契約（例えば、金利スワップ取引、スワップ・オプション、ベシス・スワップ、金利先渡取引、商品スワップ、商品オプション、株式もしくは株式指数スワップ、利息オプション、通貨取引、アセット・スワップ取引、信用デリバティブ取引または資金取引（例えば、内部資金契約またはレポ取引であるが、これらに限定されない。）を含むが、これらに限定されない。）の解除をする際に、その時点における一般的な状況下で発生したCACIBもしくはその関連会社の損失もしくは費用（正の数値で表示される。）またはその時点における一般的な状況下で実現されたCACIBもしくはその関連会社の収益（負の数値で表示される。）（マーケット・ビッド/オファー・スプレッドおよびかかる解除に関する付随費用を含む。）をいう。ただし、ヘッジ金額の決定は、CACIBに関して下記「6 債務不履行事由」の(a)項または(c)項に定める債務不履行事由が発生し、継続している場合、CACIBの財政状況を考慮しないものとする。

かかる公正市場償還価格の支払は下記「9 通知」に従い本社債の所持人に通知される方法にて行われる。

別段の定めがある場合を除き、公正市場償還価格による償還は米ドル建で行われる。

(d) FATCA源泉徴収に係る償還

CACIBは、本項(d)の規定に従い、いつでもFATCA関連社債（以下に定義する。）を償還することができる。

本社債がFATCA関連社債である場合、CACIBは以下に記載する事項を明記するFATCA発行者通知書（以下に定義する。）を交付するよう相応な努力をするものとする。

- () FATCA関連社債となる社債に関するシリーズ番号およびISIN
- () CACIBがFATCA関連社債を償還するか否か、ならびに
- () CACIBがFATCA関連社債を償還する選択をする場合、
 - a. CACIBが償還するFATCA関連社債、および
 - b. CACIBによりかかるFATCA関連社債が償還される日付

FATCA発行者通知書において、CACIBがFATCA関連社債を償還しないと明記する場合、かかるFATCA関連社債の所持人は、かかる社債がFATCA関連社債であり続ける場合、FATCA関連社債の早期償還を要求し、償還日（かかる通知の発効日から少なくとも10営業日（以下に定義する。）以上後でなければならない。）を明記するFATCA投資家通知書（以下に定義する。）を交付することができる。CACIBは、FATCA投資家通知書を受領した後、当該FATCA投資家通知書に記載された日にかかるFATCA関連社債を償還する。

本項(d)に従い償還される本社債は、公正市場償還価格により償還される。

本項(d)において、

「営業日」とは、()ロンドンおよび()ニューヨーク市において商業銀行および外国為替市場が支払決済および一般業務（外国為替および外貨預金を含む。）を行っている日をいう。

「FATCA関連社債」とは、()当該社債に係る将来における支払についてCACIBがFATCA源泉徴収を行う（直接的かまたは間接的かを問わず、代理人または決済機関を通じて行われることを含むが、これらに限られない。）義務を負い、かつ、()CACIBが利用可能な合理的措置を講じてもかかるFATCA源泉徴収を回避することができないすべての社債をいう。

「FATCA源泉徴収」とは、内国歳入法第1471条(b)に記載の契約に従い要求される源泉徴収もしくは控除、または内国歳入法第1471条から第1474条までの規定もしくは当該条項の実施に関連して合意された政府間協定に基づき適用される財政上もしくは規制上の制度、規則もしくは慣行に従って課されるその他の源泉徴収もしくは控除をいう。

「FATCA投資家通知書」とは、FATCA関連社債の所持人が、下記「9 通知」に従ってCACIBに対して行う通知をいう。かかるFATCA投資家通知書の写しは、下記「9 通知」に従い主支払代理人に送付されるものとする。かかる通知は取消不能であり、かつ、本項(d)に基づき支払が行われる銀行口座（または小切手による支払の場合は住所）を指定するものとする。

「FATCA発行者通知書」とは、CACIBが主支払代理人および、（場合に応じて）下記「9 通知」に従って本社債の所持人に行う通知をいう。

「社債の概要」において、

「内国歳入法」とは、1986年合衆国内国歳入法（その後の改正を含む。）をいう。

(e) 規制償還または強制転売

CACIBは、認可譲受人（以下に定義する。）でない者またはその代理人が保有する本社債の所持人の費用およびリスクで、随時()かかる本社債の一部もしくはすべてを償還し、または()かかる所持人に対して、本社債をレギュレーションSに従い合衆国（下記「社債の概要 3 支払 (b) 本社債および

び利札の呈示」に定義する。) 外に居住する認可譲受人へ売却するよう請求する権利を有する。特定の場合にいずれの本社債を上記()に従い償還するかまたは上記()に従い売却するかは、CACIBがその単独の絶対的な裁量により決定するものとする。かかる償還は、公正市場償還価格により行われる。

本項(e)において、

「認可譲受人」とは、以下ではない者をいう。

- () レギュレーションSにおいて定義される米国人
- () 合衆国商品取引法に基づくCFTC規則4.7(CFTC規則4.7(a)(1)() (D)における非合衆国人でない適格者の例外を除く。)において定義される非合衆国人以外の者
- () 合衆国商品先物取引委員会により公布された一定のスワップ規制遵守に関する解釈ガイダンスおよび政策声明に記載される米国人
- () 合衆国商品取引法に基づき適用された規制またはガイダンスにおいて定義されるその他の米国人。いずれの場合にもかかる定義はその後の改正を含む。

「社債の概要」において、

「合衆国証券法」とは、1933年合衆国証券法(その後の改正を含む。)をいう。

「レギュレーションS」とは、合衆国証券法に基づくレギュレーションSをいう。

(f) 違法性および不可抗力

CACIBは誠実に以下を決定する場合、本社債の所持人に下記「9 通知」に従い通知することにより本社債をいかなる時でも早期に償還する権利を有する。

- () 本社債に基づく義務の履行が、あらゆる理由により全部または一部が違法となること
- () 本社債に基づく義務の履行が、該当する取引が完結した日(同日を含まない。)の後に発生した不可抗力事由(以下に定義する。)により、実行不可能または不可能となること

本項(f)において、

「不可抗力事由」とは、CACIBの合理的コントロールの及ばない事由をいい、以下に掲げる事由が(A)CACIBの本社債に基づく債務の履行を阻止、制限、遅延またはその他重大な障害となる場合および/または(B)市場その他における本社債に係る取引の決済を重大な範囲で阻止または制限する場合を含むがこれらに限られない。

- a. 政府当局またはその他の法律、規則、規制、判決、命令、指令、法令または重要な法的介入
- b. 戦争(内戦その他)、混乱、軍事行為、騒動、政治的混乱、いかなるテロ行為、暴動、抗議および/または騒乱の発生または宣言
- c. サボタージュ、火災、洪水、爆発、地震、気象もしくはは地理的要因による大災害、その他の災難または危機
- d. 金融上、政治上もしくはは経済上の事由(国内外の政治、法律、税金または規制条件の変更を含むがこれらに限られない。)またはCACIBのコントロールの及ばないその他の原因もしくはは障害

「政府当局」とは、国家、州または政府、その属州またはその他の行政区画、組織、機関または省、税務、金融、外国為替またはその他の当局、法廷、裁判所またはその他の手段、および、政府の執行、立法、司法、規制もしくはは行政機能を行使するまたは政府に関するその他の事業体を意味する。

上記本社債の終了後すぐに、CACIBは各本社債について本社債の所持人に対して公正市場償還価格を支払うものとする。支払は下記「9 通知」に従い、本社債の所持人に通知される方法で行われる。

(g) 買入れ

CACIBおよびその子会社は、市場その他において、いかなる価格でも、随時本社債を（ただし、本社債が最終券面の無記名式社債（下記「14 その他（4）様式、額面および所有権」に定義する。）（以下「最終無記名券面」という。）である場合は、当該本社債に付されていた支払期日未到来のすべての利札と共に）買入れることができる。CACIBによりまたはCACIBのために買入れられた本社債は、CACIBの選択により、適用される法令に従い、引渡しおよび消却が行われるか、または保持もしくは転売される。

(h) 消却

CACIBにより消却のために買入れられたまたは償還されたすべての本社債は、償還時に当該本社債に付されていたまたは当該本社債と共に引渡された支払期日未到来の利札と共に、直ちに消却されるものとする。消却されたすべての本社債および上記(g)に基づき消却のために買入れられた本社債は、（当該本社債と共に消却された支払期日未到来の利札と共に）主支払代理人に引渡されるものとし、再発行または転売することはできない。

3 支払

(a) 支払方法

本社債に関する支払は（下記の制限の下で）支払受領者がニューヨーク市に所在する銀行に有する米ドル建口座への入金もしくは送金、または支払受領者の選択により、ニューヨーク市に所在する銀行を支払場所とする米ドル建小切手により行われるものとする。

一切の支払は、支払地において適用のある財政その他の法令に服するが、下記「8 課税上の取扱い（1）フランスの租税」の規定の適用を妨げない。

(b) 本社債および利札の呈示

最終無記名券面に関する元金の支払は（下記の制限の下で）最終無記名券面の呈示および引渡し（一部支払の場合は裏書き）との引換えのみによって、上記(a)に定める方法で行われ、最終無記名券面に関する利息の支払は、上記の通り（下記の制限の下で）利札の呈示および引渡し（一部支払の場合は裏書き）との引換えのみによって行われるものとし、いずれの場合も、支払代理人（下記「14 その他（2）代理契約」に定義する。）の合衆国（「社債の概要」において、別途定義する場合を除き、アメリカ合衆国（州およびコロンビア特別区およびその属領を含む。）を意味する。）外の所定の事務所において行われるものとする。

最終無記名券面の様式の本社債の場合、当該本社債は、それに付された支払期日未到来のすべての利札と共に支払のために呈示されなければならないが、かかる呈示がなされない場合には、欠缺した支払期日未到来の利札について支払われるべき金額（一部支払の場合には、支払期日未到来の欠缺利札の総額に、一部支払がなされた金額が支払われるべき金額に占める割合を乗じた額）が支払額から控除される。そのように控除された元金額は、（下記「10 消滅時効」に基づき当該利札が無効になっていると否とを問わず）当該元金額に係る関連日（下記「8 課税上の取扱い（1）フランスの租税」に定義する。）の後10年が経過するまでの間いつでも、または（それより遅い場合は）、当該利札の支払期日が到来した日から5年が経過するまでの間いつでも、当該欠缺利札と引換えに上記の方法で支払われる（ただし、それ以後はいかなる場合においても支払われない。）。

最終無記名券面の償還期日が利払日でない場合には、直前の利払日（同日を含む。）または（場合により）利息起算日以降当該本社債について発生した利息（もしあれば）は、当該最終無記名券面と引換えによってのみ支払われるものとする。

無記名式大券により表章される本社債に関する元金および利息（もしあれば）の支払は、（下記の制限の下で）無記名式社債につき上記に定める方法または大券に定める方法により、当該大券の呈示または（場合により）引渡しと引換えに、合衆国外の支払代理人の所定の事務所において行われる。各支払は、当該大券が呈示された支払代理人により当該大券の券面上にまたは（場合により）ユーロクリア・バンク・エスエー/エヌブイ（以下「ユーロクリア」という。）およびクリアストリーム・バンキング・エス・エー（以下「クリアストリーム」という。）の名簿上に、元金の支払と利息の支払とに分けて記録される。

(c) 支払に関するその他の規定

大券の所持人は、当該大券により表章された本社債に関する支払を受けることのできる唯一の者であり、CACIBは、当該大券の所持人に対しまたは当該所持人の指図に従い支払をなすことにより、そのように支払われた各金額について免責される。ユーロクリアまたはクリアストリームの名簿に当該大券により表章された本社債の一定の額面金額の実質的な所持人として記載されている者は、当該大券の所持人に対しまたは当該所持人の指図に従いCACIBが支払った各金額に関するかかる所持人の持分について、（場合により）ユーロクリアまたはクリアストリームに対してのみ支払を請求しなければならない。

上記にかかわらず、もし(A)CACIBが、合衆国外に所定の事務所を有する支払代理人を任命するに当たり、当該支払代理人がかかる合衆国外の所定の事務所において無記名券面に関する元金および利息の全額の支払を支払期限に上記に定める方法で行い得るであろうと合理的に予想していたにもかかわらず、(B)かかる合衆国外の所定の事務所のすべてにおいて当該元金および利息の全額の支払が違法であるかまたは米ドルでの元金および利息の全額の支払もしくは受領についての為替管理その他類似の制限によって実質的に妨げられ、かつ(C)その時点においてそのように支払うことが、CACIBの判断によればCACIBに不利な税務上の帰結をもたらすことなく米国の法のもとで許容されている場合、無記名券面に関する米ドルによる元金および/または利息の支払は、合衆国内における支払代理人の所定の事務所において行われる。

本社債については、CACIBおよびその各支店が単一の法人組織であり、本社債に基づき支払を行う義務は、CACIB全体としての義務となる。

(d) 支払営業日

本社債または利札に関する金額の支払期日が、支払営業日以外の日にあたる場合には、当該本社債または利札の所持人は代わりに当該場所における翌支払営業日に支払を受けることができる。本項(d)に従って支払期日についての調整が行われる場合、本社債または利札に関する当該金額は、かかる調整による影響を受けないものとする。

(e) 一般

計算代理人、CACIB、ディーラー（以下に定義する。）または代理人（下記「14 その他（2）代理契約」に定義する。）のいずれも、満期償還価格その他いかなる金額の計算の誤りまたは脱漏についても責任を負わないものとする。

本項(e)において、

「ディーラー」とは、CACIBをいう。

(f) 解釈

「社債の概要」において、本社債に関する元金には、場合により、適用される法律により認められる範囲において、以下のものを含むものとみなす。

- () 下記「8 課税上の取扱い (1) フランスの租税」に基づき、元金に関し支払われることのある追加額
- () 本社債の満期償還価格
- () 本社債の公正市場償還価格

「社債の概要」において、本社債に関する利息には、場合により、下記「8 課税上の取扱い (1) フランスの租税」に基づき、利息に関し支払われることのある追加額を含むものとみなす。

4 通貨変更(予定支払通貨停止事由)

予定支払通貨停止事由(以下に定義する。)が発生した場合、

- (a) 計算代理人は、本社債に関するCACIBの支払義務の全部を、自らが選択するその他の通貨に随時転換することができ、かかる支払義務の全部は、さらなる措置またはいかなる同意なしに、計算代理人が決定する為替レートで当該通貨(以下「代替支払通貨」という。)に転換される。かかる転換は、下記「9 通知」に従いCACIBが本社債の所持人に対して通知した日時より効力が発生するものとする。転換が行われた場合、()本社債に関するCACIBの支払義務の全部は代替支払通貨建で支払われ、()本社債の要項はこれに従って解釈され、また()計算代理人はかかる転換を実施するために適切とみなす本社債の要項に対するその他の修正を行う権限を有する。
- (b) 計算代理人が、上記(a)に従い本社債に関するCACIBの支払義務を転換するまでの間、または計算代理人が転換を行わないことを決定した場合、本社債に関するCACIBの支払義務は、さらなる措置またはいかなる同意なしに、適用される法律により定まるまたはその他計算代理人が決定する為替レートに基づきその時点でフランスにおいて採用されている通貨に転換されるものとし、本社債の要項はこれに従って解釈されるものとする(例えば、計算代理人がかかる転換を反映するために適切とみなす本社債の要項に対するその他の変更の実施を含むが、これに限定されない。)。
- (c) CACIBは、下記「9 通知」に従い本社債の所持人に対して通知をした上で、その単独の絶対的な裁量により、本社債の全部(一部は不可)を自らが指定する日に早期に償還することができる。各本社債は、代替支払通貨建(適用ある場合)またはその時点でフランスにおいて採用されている通貨建で、公正市場償還価格にて償還されるものとする。

CACIBは、予定支払通貨停止事由の発生時に、予定支払通貨停止事由の発生を下記「9 通知」に従い本社債の所持人に対して可及的速やかに通知し、かかる通知にはその概要およびこれに関連する対応案を記載するものとする。

本4項において計算または決定を行う際、計算代理人は関連するとみなすすべての情報を考慮するが、その他の点ではその単独の絶対的な裁量により行為するものとする。上記にかかわらず、計算代理人は予定支払通貨停止事由の発生後、いかなるシリーズの社債についてもCACIBの支払義務を代替支払通貨に転換する義務を負わない。CACIBおよび計算代理人のいずれも、予定支払通貨停止事由の発生により生じた損失に関して本社債の所持人に対するいかなる責任も負わない。

本4項に従いCACIBが行った支払は、有効な支払となり、本社債の債務不履行を構成しないものとする。

本4項において、

「予定支払通貨」とは、米ドルをいう。

「予定支払通貨停止事由」とは、計算代理人がその単独の絶対的な裁量により、理由の如何を問わず、随時予定支払通貨が法定通貨として存在しなくなったと判断した場合をいう。

5 本社債の地位

本社債および本社債に関する利札は、CACIBの直接、非劣後、上位優先（フランス通貨金融法典第L.613-30-3-1-3条の意義の範囲内におけるところによる。）かつ無担保の債務を構成し、現在および将来において、本社債相互の間および（上記に従いかつ法律上の一定の例外を除き）その時々CACIBの未償還の他の一切の非劣後、上位優先かつ無担保の債務との間で同順位であり、また、CACIBが負担するその他の一切の既存のまたは将来の直接、非劣後、上位優先、無条件かつ無担保の債務（法律により優先されるものを除く。）と少なくとも同順位である。

6 債務不履行事由

以下に掲げる事由（以下それぞれを「債務不履行事由」という。）のいずれか1つ以上の事由が発生した場合、本社債の所持人は、主支払代理人の所定の事務所に宛ててCACIBに書面で通知することにより（かかる通知は主支払代理人が受領した時点で有効となる。）、所持人が保有する本社債は直ちに期限が到来し支払われるべき旨を宣言することができ、当該本社債は、呈示、要求、抗議またはその他あらゆる種類の通知を行うことなく、直ちに期限が到来し、その公正市場償還価格が支払われるべきものとなる。

(a) いずれかの本社債の元金または利息がその支払期日に支払われず、利息の支払についてはかかる不履行が、かかる旨の書面による通知を主支払代理人（主支払代理人は、本社債の所持人の要請に応じて直ちにかかる通知を行わなければならない。）からCACIBが受領したときから15日間以上継続した場合。ただし、CACIBが当該期間の満了前にかかる不履行を治癒した場合はこの限りではない。

(b) CACIBが「社債の概要」に基づくその他の債務の履行または遵守を怠り、かつ、（通知が必要でなく、かかる不履行の治癒が不可能な場合を除き）CACIBがかかる不履行を治癒できる場合で、かかる不履行およびかかる不履行の治癒の要求を明記した書面による通知を主支払代理人（主支払代理人は、本社債の所持人の要請に応じて直ちにかかる通知を行わなければならない。）からCACIBが受領したときから60日以内に治癒しなかった場合。

(c) CACIBが全般的に支払期限の到来した債務の支払を中止した場合、CACIBの法律上の清算手続（liquidation judiciaire）もしくは事業全体の譲渡（cession totale de l'entreprise）について判決がなされた場合、CACIBが類似の破産手続もしくは倒産手続の下にある場合、またはCACIBが債権者の利益のために資産の全部もしくは重要な部分に関して権利移譲、譲渡もしくはその他の契約を提案した場合、またはCACIBが清算もしくは解散の決議を採択した場合（ただし、新設合併、吸収合併、その他の事業体への資産の全部または大部分の譲渡に関するもので、その結果、新設事業体、存続事業体または譲受事業体の信用力が、かかる行為の前のCACIBよりも著しく悪化していない場合を除く。）。

7 社債権者集会、変更および権利放棄

代理契約は、本社債、利札または代理契約の条項を特別決議（代理契約に定義される。）により修正することを承認することを含む、本社債の所持人の利益に影響を与える事項について審議するために社債権者集会を招集することについて、定めている。CACIBまたは本社債の所持人が社債権者集会を招集することができ、本社債の元本残高の10%以上を有する本社債の所持人により書面による要求があった場合、CACIBは社債権者集会を招集するものとする。特別決議を採択するための社債権者集会の定足数は、本社債の元本残高の50%以上を保有もしくは代表する1名以上の者、その延会においては、保有もしくは代表される本社債の元本金額の如何にかかわらず、本社債の所持人本人もしくはその代理人1名以上の者とする。ただし、本社債または利札の特定の規定の修正（本社債の償還期日もしくは利払日の修正、本社債の元金もしくは利率の減額もしくは取消、または本社債もしくは利札の支払通貨の変更を含む。）を議題とする集会における定足数は、本社債の元本残高の3分の2以上を保有または代表する1名以上の者、その延会においては、本社債の元本残高の3分の1以上を保有または代表する1名以上の者とする。（ ）社債権者集会で採択された特別決議または（ ）本社債の所持人すべてによりもしくは本社債の所持人すべてのために署名された書面をもって採択された特別決議は、（集会で採択された特別決議の場合には）出席の有無にかかわらず、本社債の所持人すべてを拘束し、また利札の所持人すべてを拘束する。

CACIBは、本社債の所持人または利札の所持人の同意を得ることなく（またかかる本社債の所持人もしくは利札の所持人の個別の事情または特定の法域における税金もしくはかかる修正によるその他の結果を考慮することなく）、以下の点について、本社債の要項、利札または代理契約の修正を実施することができる。

- (a) 本社債の所持人の利益に重要な悪影響のない修正および/または
- (b) 形式的、軽微もしくは技術的な修正、または明白な誤記もしくは脱漏を訂正するため、不完全な規定を是正、訂正もしくは補足するためもしくは（ ）法律もしくは規制の強行規定、（ ）CACIBを監督する規制当局の規則もしくは要求もしくは（ ）本社債が上場され得る証券取引所の要求に従うための修正

かかる修正は、本社債の所持人および利札の所持人を拘束する。また、かかる修正後は、下記「9 通知」に従い本社債の所持人に可及的速やかにその旨通知される。

8 課税上の取扱い

本社債に投資しようとする申込人は、各申込人の状況に応じて、本社債に投資することによる課税上の取扱いおよびリスクまたは本社債に投資することが適当か否かについて各自の財務・税務顧問に相談する必要がある。

(1) フランスの租税

本社債および利札に係る元金および利息の支払はすべて、課税管轄地域によりまたはそれに代わって、現在または将来において課されまたは賦課されるあらゆる性質の税金または賦課金を源泉徴収もしくは控除することなくまたはそれらを理由にすることなく行われる（ただし、かかる源泉徴収または控除を法により強制される場合（以下「グロスアップ事由」という。）を除く。）。

グロスアップ事由が発生した場合、CACIBはフランスの法律により認められる最大限の範囲で、本社債の所持人または利札の所持人がかかる源泉徴収または控除の後に受領する本社債の元金または利息の純受取額が、かかる源泉徴収または控除がなければ本社債または利札について受領したであろう金

額と等しくなるように必要な追加額を支払うものとする。ただし、かかる追加額は以下の場合には支払われないものとする。

- () 支払のためにフランスで本社債または利札が呈示された場合
- () 本社債または利札を保有する以外に、課税管轄地域と何らかの関連を有することを理由として、かかる税金、賦課金を負担する所持人またはかかる所持人を代理する第三者に対する場合
- () 居住申告または非居住申告を含む（これに限定されない。）申告またはその他の表明を行えば、源泉徴収または控除を免除されたであろうが、怠った所持人によりまたはその者に代わって支払のために本社債または利札が呈示された場合
- () 関連日後30日を過ぎて支払のために本社債または利札が呈示された場合（ただし、本社債の所持人または利札の所持人がかかる30日目（かかる日が支払営業日であったと仮定すれば）に支払のためにこれを呈示していたならば受領することができた当該追加額を除く。）
- () EU加盟国内の別の支払代理人に本社債または利札を呈示したならば、かかる源泉徴収または控除を回避できたであろう所持人によりまたはその者に代わって支払のために本社債または利札が呈示された場合
- () 所持人がフランスの一般租税法典（Code général des impôts）第238-0 A条の意義の範囲内における非協調国または地域に所在しもしくは設立されているかまたは口座を開設している場合

「社債の概要」において、以下の用語は、以下の意味を有する。

「課税管轄地域」とは、フランスまたはその行政区画もしくは課税当局をいう。

「関連日」とは、当該支払について最初に支払期日が到来した日、または支払われるべき金員の全額が当該期日までに主支払代理人により受領されていない場合は、当該金員の全額が受領され、その旨の通知が下記「9 通知」に従い本社債の所持人に対してなされた日をいう。

(2) FATCA

本社債に係る支払からの控除もしくは源泉徴収または本社債に関連する控除もしくは源泉徴収が、内国歳入法第1471条から第1474条までの規定およびこれに基づく合衆国財務省規則（以下「FATCA」という。）に関連した合衆国内国歳入庁との協定、合衆国とフランス、ガーンジー、ルクセンブルグまたはその他の法域の間のFATCAに関する政府間協定またはFATCAもしくは政府間協定を実施するもしくはそれらに関連するいずれかの法域における法律、規則もしくはその他公式のガイドラインに基づいて課されたものである場合、CACIBまたはいかなる支払代理人も、かかる控除または源泉徴収を理由とする追加額の支払を行わないものとする。

(3) 租税情報のEU内での交換

各所持人は、租税の分野における行政協調に関するEU理事会指令第2011/16/EU号（EU理事会指令第2014/107/EU号により修正）により主支払代理人に課された確認および報告義務を遵守するために、要求される情報を、適時に主支払代理人へ提供する責任を有するものとする。

(4) 日本国の租税

以下は本社債に関する日本国の租税上の取扱いの概略を述べたにすぎず、本社債に投資しようとする投資家は、各投資家の状況に応じて、本社債に投資することによるリスクや本社債に投資することが適当か否かについて各自の会計・税務顧問に相談する必要がある。

本社債は、特定口座において取り扱うことができる。

本社債の利息は、日本国の租税に関する現行法令（以下「日本国の税法」という。）の定めるところにより、一般的に利息として取り扱われるものと考えられる。日本国の居住者が支払を受ける本社債の利息は、それが国内における支払の取扱者を通じて支払われる場合には、日本国の税法上、国税と地方税が源泉所得税として課される。さらに、日本国の居住者は、申告不要制度または申告分離課税を選択することができる。日本国の内国法人が支払を受ける本社債の利息は、それが国内における支払の取扱者を通じて支払われる場合には、日本国の税法上、国税が源泉所得税として課される。当該利息は当該法人の課税所得に含められ、日本国の所得に関する租税の課税対象となる。ただし、当該法人は当該源泉所得税額を、一定の制限の下で、日本国の所得に関する租税から控除することができる。

本社債の譲渡または償還による損益のうち、日本国の居住者に帰属する譲渡益または償還差益は、申告分離課税の対象となる。ただし、特定口座のうち当該口座内で生じる所得に対する源泉徴収を日本国の居住者が選択したもの（源泉徴収選択口座）における本社債の譲渡または償還による所得は、確定申告を不要とすることができる。また、日本国の内国法人に帰属する譲渡損益または償還差損益は、当該法人のその事業年度の日本国の所得に関する租税の課税対象となる所得の金額を構成する。

なお、日本国の居住者は、本社債の利息、譲渡損益および償還差損益について、一定の条件で、他の社債や上場株式等の譲渡所得、利子所得および配当所得と損益通算および繰越控除を行うことができる。

本社債の利息、譲渡益および償還差益で、日本国に恒久的施設を持たない日本国の非居住者および外国法人に帰属するものは、日本国の所得に関する租税は課されないと考えられる。

9 通知

本社債に関するすべての通知は、ロンドンで講読される代表的な英語の日刊新聞に掲載された場合に有効になされたものとみなされる。かかる新聞への掲載はロンドンのフィナンシャル・タイムズ紙になされる予定である。かかる通知は、最初に掲載された日付、または複数の新聞紙での掲載を要求される場合には、掲載を要求されるすべての新聞紙に最初に掲載された時点での日付をもって、なされたものとみなされる。

最終券面が発行されるまでは、ユーロクリアおよび/またはクリアストリームのために本社債を表章している大券が全部保管されている限り、かかる新聞への掲載の方法に代えて、本社債の所持人に対する連絡のためユーロクリアおよび/またはクリアストリームへ通知を交付するという方法をとることができる。かかる通知は、ユーロクリアおよび/またはクリアストリームに通知がなされた日からユーロクリアおよび/またはクリアストリームにおける1営業日後に本社債の所持人になされたものとみなされる。

本社債の所持人による通知は書面によるものとし、これを関連する本社債と共に主支払代理人に預託するものとする。大券が各本社債を表章している間も、本社債の所持人は、（場合により）主支払代理人および/またはユーロクリアおよび/またはクリアストリームが認める方法で、（場合により）主支払代理人および/またはユーロクリアおよび/またはクリアストリームにかかる通知を行うことができる。

10 消滅時効

本社債および利札は、それぞれの関連日から元本の支払については10年、利息については5年の期間内に元本および/または利息に関して請求がなされない場合は失効する。

11 情報開示の誓約

各本社債の所持人（本社債が名義人によりまたは決済機関において保有されている場合は、本社債の実質所有者）は、本社債もしくは本社債に係る権利を引き受けることまたは本社債もしくは本社債に係る権利を購入することにより、以下の事項に同意する。

- (a) 法務、税務または規制上の事項に関して、CACIB（またはCACIBのために行為する代理人）が合理的に要求する自らが入手可能なあらゆる情報および書類（CACIBに随時適用される法務、税務および規制上の要件にCACIBが従うために必要な情報または望ましい情報を含む。）をCACIB（またはCACIBのために行為する代理人）に対して提供すること。
- (b) 本社債の所持人の身元および当該所持人またはその後継の譲受人が本社債の購入にあたり使用する支払源を確認するためにCACIB（またはCACIBのために行為する代理人）が合理的に要求する自らが入手可能なあらゆる情報および書類をCACIB（またはCACIBのために行為する代理人）に対して提供すること。
- (c) CACIB（またはCACIBのために行為する代理人）が、適用される銀行秘密法および関連する秘密保持規定に従い、（ ）かかる情報および書類ならびに本社債に対する投資に関するその他の情報を関連する政府当局、銀行監督当局、税務当局その他の規制当局に提供し、（ ）適用される法律または規制に従うために（あらゆる場合において、CACIBまたはその個別の代理人の単独の裁量により）必要または有用と考えられるその他の措置を講じ得ること。

12 準拠法および裁判管轄

本社債、利札およびこれらに起因してまたはこれらに関連して生じる非契約的債務はイングランド法に準拠するものとし、これに従って解釈される。商事会社に関する1915年8月10日付ルクセンブルグ法（その後の改正を含む。）の第470-1条から第470-19条までの規定を含まない。本社債の所持人は、商事会社に関する1915年8月10日付ルクセンブルグ法（その後の改正を含む。）の第470-21条に基づきいかなる行為も行おうことができない。

- (a) 当事者らは、イングランドの裁判所が本社債および／もしくは利札から生じ、または本社債および／もしくは利札に関して生ずるあらゆる紛争（本社債および／もしくは利札に起因してまたは本社債および／もしくは利札に関連して生じる非契約的債務に関する紛争を含む。）を解決する管轄権を有すること、したがって本社債および／もしくは利札から生じ、または本社債および／もしくは利札に関して生じる訴訟または手続（以下「訴訟手続」と総称する。）（本社債および／もしくは利札に起因してまたは本社債および／もしくは利札に関連して生じる非契約的債務に関する訴訟手続を含む。）をかかるとして提起しなければならないことに合意する。

当事者らは、かかる訴訟手続の裁判管轄をかかるとして提起することに対し当事者ら（またはそのいずれか）が現在または将来において有する異議申立ておよびかかる訴訟手続が不都合な法廷地で提起されたとの主張を、ここに取消不能の形でイングランドの管轄裁判所に提出し、放棄すると共に、イングランドの裁判所に提起されたかかる訴訟手続における判決が終局的なものであり、当事者ら（またはそのいずれか）に対して拘束力を有し、他の法域における裁判所においても執行可能であることに關し、ここに取消不能の形で合意する。

- (b) 疑義を避けるため付言すると、上記(a)および本項(b)の規定は、規則（EU）第1215/2012号（以下「ブリュッセル改正規則」という。）に基づく当事者らの権利に影響を与えず、その規定の効力は、ブリュッセル改正規則に従い管轄権を有する裁判所の管轄権を制限しない。

本社債の条項を実施するための1999年契約（第三者の権利）法に基づきいかなる権利も付与されないが、同法とは無関係に存在したまたは行使可能な第三者の権利または救済手段に影響を及ぼすものではない。

CACIBは、現在イングランドに事務所を有し、ロンドン市 EC2A 2DA、アポルド・ストリート5、ブロードウォーク・ハウスに所在するクレディ・アグリコル・CIB、ロンドン支店を本社債についての訴訟手続に関するイングランドにおける送達代理人に任命し、クレディ・アグリコル・CIB、ロンドン支店が送達代理人としての職務の遂行を停止したときまたはイングランドに事務所を有さなくなったときは本社債についての訴訟手続に関するイングランドにおける送達代理人として他の者を任命することを約束する。本項の内容は、法律により認められる他の方法で訴状等の送達を行う権利に影響を及ぼすものではない。

CACIBは、代理契約、適用される捺印証書およびイングランド法ディード・オブ・コベナントのそれぞれに関して、イングランドの裁判所の管轄に服しており、かつ、上記と実質的に同様の条件で送達代理人を任命している。

「社債の概要」の規定が無効となった場合であっても、その他の規定の有効性に何らの影響を及ぼすものではない。

13 バイルイン

(1) 承認

本社債のシリーズのその他の条項またはクレディ・アグリコル・CIBおよび本社債の所持人の間のその他の契約、取決めまたは合意にかかわらず、本社債を取得することにより、各本社債の所持人（本13項において、本社債の各実質的保有者を含む。）は、以下について承認し、受諾し、同意し、合意する。

(a) 関連破綻処理当局（以下に定義する。）によるバイルイン権限（以下に定義する。）の行使の効果（以下に定めるもののいずれかまたはそれらの組合せを含むことがあり、また結果としてこれらを招来することがある。）に服すること。

() 本支払金額（以下に定義する。）の全部または一部の恒久的な減額

() 本支払金額の全部または一部の、クレディ・アグリコル・CIBまたはその他の者の株式、その他の有価証券またはその他の債務への転換（それにとまなう本社債の所持人に対するかかる株式、有価証券または債務の発行）（本社債の条項の修正、改定または変更による場合を含む。）。この場合、本社債の所持人は、本社債に基づく権利の代わりに、クレディ・アグリコル・CIBまたはその他の者のかかる株式、その他の有価証券またはその他の債務を受領することに同意する。

() 本社債の消却

() 本社債の償還期限の改定もしくは変更、または本社債に関して支払われるべき利息の金額もしくは当該利息の支払期日の変更（支払を一時的に停止することによるものを含む。）、および

(b) 本社債の条項は、関連破綻処理当局によるバイルイン権限の行使に服し、かかる権限の行使を有効にするために必要な場合、変更されることがあること。

本13項において、以下の用語は、以下の意味を有する。

「関連破綻処理当局」とは、金融健全性規制監督・破綻処理機構（以下「ACPR」という。）、単一破綻処理メカニズム規則に基づき設立された単一破綻処理委員会、および/または、その時々においてバイルイン権限を行使する権限を有し、またはバイルイン権限の行使に参加する権限を有するその

他の当局（単一破綻処理メカニズム規則第18条に基づき行為する場合の欧州連合理事会および欧州委員会を含む。）を意味する。

「規制対象会社」とは、2015年8月20日付政令により改定されたフランス通貨金融法典第L.613-34条第1項に規定される会社を意味し、一定の金融機関、投資会社およびフランスにおいて設立されたそれらの一定の親会社または持株会社を含む。

「バイルイン権限」とは、金融機関および投資会社の再生ならびに破綻処理の枠組みを定める2014年5月15日付の欧州議会および欧州理事会の指令第2014/59/EU号（その後の改正を含み、以下「BRRD」という。）の国内法制化に係る、フランスの有効な法律、規制、規則または要件（2015年8月20日付フランス政令第2015-1024号（金融関連EU指令等の実施に必要な国内法令を整備するための諸規定に関する政令）（その後の改正を含み、以下「2015年8月20日付政令」という。）、単一破綻処理メカニズムおよび単一破綻処理基金の枠組み内での金融機関および一定の投資会社の破綻処理に関する統一的な規則および統一的な手続を定めると共に規則（EU）第1093/2010号を改正する2014年7月15日付の欧州議会および欧州理事会規則（EU）第806/2014号（その後の改正を含み、以下「単一破綻処理メカニズム規則」という。）に基づくもの、またはその他フランス法に基づき生じたものを含むがこれに限定されない。）、ならびにいずれの場合もそれらに従って制定された命令、規則および基準であって、それらに準拠して規制対象会社（もしくはその関連会社）の債務の（一部または全部の）減額、消却、停止、譲渡、変更もしくはその他何らかの改定、または規制対象会社（もしくはその関連会社）の有価証券の、かかる規制対象会社もしくはその他の者の株式、その他の有価証券もしくはその他の債務への転換が可能となるものに基づいてその時々存在する権限を意味する（破綻処理における措置後のバイルイン手法の実施、破綻処理手続が開始される前か破綻処理手続を伴わない減額もしくは転換権限の実施またはその他に関連しているかを問わない。）。

「本支払金額」とは、適用される「社債の概要」に従った、本社債に基づく支払をいう。

(2) 利息およびその他の支払金額の残高の支払

本支払金額の返済または支払がそれぞれ期日を迎える時点においてクレディ・アグリコル・CIBまたはクレディ・アグリコル・グループ企業に適用あるフランスおよび欧州連合における有効な法令に基づきクレディ・アグリコル・CIBが当該返済または支払を行うことが許される場合を除き、クレディ・アグリコル・CIBに関する関連破綻処理当局によるバイルイン権限の行使後は、いかなる本支払金額の返済または支払も支払期限が到来せず、支払もなされないものとする。

(3) 債務不履行事由を構成しないこと

クレディ・アグリコル・CIBに関する関連破綻処理当局によるバイルイン権限の行使の結果による本社債の消却、本支払金額の一部または全部の減額、本支払金額のクレディ・アグリコル・CIBまたはその他の者のその他の有価証券または債務への転換、および本社債に関する関連破綻処理当局によるバイルイン権限の行使は、いずれも債務不履行の事由には該当せず、またその他の契約上の義務の不履行を構成しないものとし、また、かかる本社債の所持人に対して救済（衡平法上の救済を含む。）（当該救済は社債の要項により明示的に放棄される。）を受ける権利をもたらすものではないものとする。

(4) 本社債の所持人への通知

関連破綻処理当局により本社債に関するバイルイン権限が行使された場合、クレディ・アグリコル・CIBは、当該バイルイン権限の行使について、上記「9 通知」に従い、可能な限り速やかにかか

る本社債の所持人に対して書面により通知する。また、クレディ・アグリコル・CIBは、かかる通知の写しを情報提供のため主支払代理人に交付するものとするが、主支払代理人は、かかる通知をかかると本社債の所持人に送付する義務を負わないものとする。クレディ・アグリコル・CIBが通知を遅滞した場合、またはかかる通知を怠った場合であっても、かかる遅滞または懈怠は、ペイルイン権限の有効性および執行可能性に影響を及ぼさず、また上記(1)に記載される本社債に対する効力に影響を及ぼさない。

(5) 代理人の義務

関連破綻処理当局によりペイルイン権限が行使された場合に、関連破綻処理当局によるペイルイン権限の行使に関連して(a)代理人は本社債の所持人からいかなる指示も受ける必要がなく、(b)代理人は代理契約に基づきいかなる義務も課されていないことについて承認し、受諾し、同意し、合意する。

上記にかかわらず、関連破綻処理当局によるペイルイン権限の行使の完了後、引き続き未償還の本社債がある場合(例えば、ペイルイン権限の行使の結果、本社債の元金の一部の減額しかされなかった場合)、クレディ・アグリコル・CIBおよび代理人が代理契約の改定に従って合意する場合その合意の範囲内で、代理契約に基づく代理人の義務は、かかるペイルイン権限の行使の完了後も、引き続き本社債に関して適用があるものとする。

(6) 按分

関連破綻処理当局によるペイルイン権限が本支払金額の総額よりも少ない金額に関して行使された場合、代理人がクレディ・アグリコル・CIBまたは関連破綻処理当局により別途指示を受けた場合を除き、ペイルイン権限に基づいて関連シリーズの本社債に関して行われる消却、減額または転換は、按分計算により行われる。

(7) 包括的条項

本13項に定める事項は、上記の事項につき唯一網羅的なものであり、クレディ・アグリコル・CIBおよび本社債の所持人間のその他のいかなる契約、取決めまたは合意をも除外するものとする。

14 その他

(1) 代わり社債券および代わり利札

本社債または利札が紛失、盗失、毀損、汚損または滅失した場合、主支払代理人の所定の事務所において、これにつき生じる費用を請求者が支払い、かつ、CACIBが合理的に要求する証拠および補償の提出を条件として、代わり券を発行することができる。毀損または汚損した本社債または利札については、代わり券が発行される前にこれを提出しなければならない。

(2) 代理契約

本社債および利札は、CACIB、主支払代理人兼銀行代理人としてのCACEISバンク ルクセンブルグ支店(以下「主支払代理人」(承継者たる主支払代理人を含む。))および契約に記載されるその他支払代理人(主支払代理人と共に、以下「支払代理人」または「代理人」と総称され、追加のまたは承継者たる支払代理人を含む。))およびその他の当事者との間の2020年5月7日付の改定代理契約(かかる代理契約は随時改訂および/または補足および/または修正される。以下「代理契約」という。)に従い、その利益を享受する。

(3) 承継

(a) 承継に関する前提条件

本社債に関連して、CACIB（かかる用語は、本項(3)においてのみ、本項(3)に基づき承継した前任者を含む。）は、本社債の所持人の同意なしに、主要な債務者としてCACIBに指名された他の会社（以下「承継債務会社」という。）に代替および承継することができる。ただし、以下の事項を条件とする。

- () (A)承継債務会社は、代理契約の別紙の様式または実質的にその様式と同じ様式の捺印証書を作成するものとし、当該書類の下で、承継債務会社は、CACIBに代わり、本社債の主要な債務者として、本社債、代理契約および適用されるディード・オブ・コベナントにその名称が記載されていたかのように、各本社債の所持人（かかる用語は、本項(3)においてのみ、利札の所持人を含む。）のために、「社債の概要」ならびに代理契約および適用されるディード・オブ・コベナントの規定に従うことを約束し、(B)CACIBは、代理契約の別紙の様式または実質的にその様式と同じ様式の保証状を作成するものとし、それに基づきCACIBは、主要な債務者として承継債務会社の支払うべき金額の全額の支払を、各本社債の所持人に対して無条件かつ取消不能の形で保証し、また(C)承継債務会社およびCACIBは、承継が完全な効力を有するために必要なその他の書類（もしあれば）（上記捺印証書および保証状とあわせて以下「書類」という。）を作成する。
- () 上記()または下記()の一般性を害することなく、承継債務会社が、フランス以外の領土において税務の観点から設立、所在または居住している場合、本社債の所持人が、承継により、かかる承継が行われなかった場合よりも不利な立場とならないために、書類は、承継債務会社による誓約および/または各本社債の所持人が誓約による利益を確実に受けるために必要な上記「8 課税上の取扱い（1）フランスの租税」の条項（フランスに関する内容については、承継債務会社が税務の観点から設立、所在または居住する1つまたは複数の領土に関する内容に承継することができる。）に相当する表現のその他の条項を含むものとする。
- () 書類は、承継債務会社およびCACIBによる以下の表明および保証を含むものとする。(A)承継債務会社およびCACIBは、かかる承継ならびに承継債務会社およびCACIBの義務に関するCACIBによる保証の付与ならびに書類に基づく承継債務会社およびCACIBのそれぞれの義務の履行に必要な一切の政府および規制当局による許可および同意を取得しており、かかる許可および同意がすべて完全に有効であること。(B)書類に基づいて各承継債務会社およびCACIBが各々負う義務は、いずれもそれぞれの条項に従って適法であり、有効かつ拘束力を有していること。
- () 承継債務会社は、主支払代理人に対し、主要な法律事務所から承継債務会社を代理して提出される、法律意見書を交付しまたは交付させるものとするが、かかる意見書は、書類が作成された場合、書類は適法であり、有効かつ拘束力を有する承継債務会社の義務を構成する旨の意見書であり、CACIBから承継債務会社への承継の日付の前7日以内の日付で作成され、主支払代理人の所定の事務所において本社債の所持人による閲覧に供されることを要する。
- () CACIBは、主支払代理人に対し、主要な法律事務所からCACIBを代理して提出される、法律意見書を交付しまたは交付させるものとするが、かかる意見書は、書類（該当する場合、承継債務会社に関してCACIBにより付与された保証を含む。）が作成された場合、書類は適法であり、有効かつ拘束力を有するCACIBの義務を構成する旨の意見書であり、CACIBから承継債務

会社への承継の日付の前7日以内の日付で作成され、主支払代理人の所定の事務所において
本社債の所持人による閲覧に供されることを要する。

- () CACIBは、主支払代理人に対し、イングランドの主要な法律事務所から提出される、法律意見書を交付しまたは交付させるものとするが、かかる意見書は、書類（該当する場合、承継債務会社に関してCACIBにより付与された保証を含む。）が作成された場合、書類はイングランド法上適法であり、有効かつ拘束力を有する当事者らの義務を構成する旨の意見書であり、CACIBから承継債務会社への承継の日付の前7日以内の日付で作成され、主支払代理人の所定の事務所において本社債の所持人による閲覧に供されることを要する。
- () 承継債務会社は、本社債に起因しまたはこれらに関連して生じる訴訟または法的手続に関して、承継債務会社に代わり送達を受けるイングランドの代理人として、上記「12 準拠法および裁判管轄」においてCACIBにより任命された送達代理人またはイングランドに事務所を有する他の者を任命していること。

(b) 承継債務会社による引受け

上記(a)()に定める書類が作成された場合で、かかる条項のその他の要件が満たされた場合、(A)承継債務会社は、CACIBに代わり、主要な債務者として本社債にその名称が記載されたものとみなされ、(B)これに基づき、本社債、適用されるディード・オブ・コベナントおよび代理契約は、承継が効力を有するよう修正されたものとみなされ（文脈上、許される場合、フランスに関する内容については、承継債務会社が設立された地域に関する内容に承継させることを含む。）、(C)CACIBは、本社債について主要な債務者としての一切の義務を免除される。

(c) 書類の預託

本社債が未償還であり、かつ承継債務会社またはCACIBに対して本社債または書類に関し本社債の所持人によりなされた請求につき終局判決、和解または免責がなされていない限り、書類は、主支払代理人に預託され保管される。書類において承継債務会社およびCACIBは、各本社債の所持人が、本社債または書類につき強制執行するため、書類を作成する権利を認めるものとする。

(d) 承継通知

書類の作成後15日以内に、承継債務会社は、かかる承継について上記「9 通知」に従って、本社債の所持人に対して通知するものとする。疑義を避けるため付言すると、かかる通知が送付されなかった場合も、承継は無効とはならない。

(e) 税効果

かかる変更または承継のかかる権利に関連して、CACIBは、目的を問わず、特定の地域に住所を置くもしくは居住しているもしくはその他特定の地域と関係を有しているまたは特定の地域の裁判管轄に服することにより生じる本社債の所持人である個人に対するかかる権利の行使の効果を考慮する義務を負わず、また本社債の所持人は、かかる変更または承継によるかかる本社債の所持人に対する税効果に関するいかなる補償または支払もCACIBに要求する権利を有しないものとする。

(4) 様式、額面および所有権

本社債は、無記名式（以下「無記名式社債」という。）であり、（最終券面の場合は）社債券番号が付され、米ドル建て、各社債券の額面金額は1,000米ドルである。最終無記名券面は、利札付で発行される。

以下に記載される条件に従って、本社債および利札の所有権は、受渡により移転する。CACIBおよびいずれの代理人も（支払期日が到来しているか否かを問わず、また、本社債もしくは利札の所有に係る注記、券面上の記載または本社債もしくは利札の以前の紛失もしくは盗失の注記にかかわらず）本社債または利札の持参人を（法律に別段の定めがない限り）その完全な権利者とみなして取り扱うことができる。ただし、大券の場合には、次の段落に定める規定の適用を妨げない。

いずれかの本社債がユーロクリアおよび/またはクリアストリームのために保有されている無記名式大券により表章されている間は、当該時点においてユーロクリアまたはクリアストリームの名簿に特定の額面金額の当該本社債の所持人として登録されている者（ユーロクリアおよびクリアストリームを除く。）（この場合、いずれかの者の口座に貸記されているかかる本社債の額面金額に関してユーロクリアまたはクリアストリームが発行した証明書その他の書類は、明白な誤りまたは立証された誤りがある場合を除き、すべての点において最終的で拘束力を有する。）は、CACIBおよび代理人によりすべての点（本社債の額面金額に係る元利金の支払に関する事項を除く。かかる事項については、大券の条項に従い、無記名式大券の所持人が、CACIBおよび代理人により額面金額の当該本社債の所持人として取り扱われるものとし、「本社債の所持人」およびこれに関連する用語はこれに従って解釈される。）において当該額面金額の本社債の所持人として取り扱われる。

無記名式社債は、合衆国証券法に基づくレギュレーションSに依拠して合衆国外で発行される。

本社債は、無記名式、かつ当初仮大券の形態で発行され（以下「仮無記名大券」という。）、当該仮無記名大券はトランシェの当初の発行日以前にユーロクリアおよびクリアストリームの共通保管機関に引き渡される。

無記名式社債が仮無記名大券によって表章されている間は、交換日（以下に定義する。）より前に支払期日の到来する本社債に係る元金、利息（もしあれば）およびその他の支払は、合衆国財務省規則により定められている通り、かかる無記名式社債の持分の実質所有者がレギュレーションSにおいて定義される米国人（U.S. Person）（以下「米国人」という。）でなくかつ米国人に転売するために購入した者でないことの証明書（様式は後に提供される）をユーロクリアおよび/またはクリアストリームが受領し、さらに場合により、ユーロクリアおよび/またはクリアストリームが（受領した証明書に基づく）かかる証明書を主支払代理人に交付した場合に限り行われる。

仮無記名大券発行後40日目の日（以下「交換日」という。）以後、かかる仮無記名大券の持分は、証明書が既に交付されている場合を除き、上記の証明書と引き換えに、同シリーズの恒久無記名大券の持分と（手数料なしで）要求に応じて交換される。ただし、合衆国における購入者および一定の米国人は、最終無記名券面を受領することはできない。仮無記名大券の所持人は、正当な証明を行ったにもかかわらず、仮無記名大券の恒久無記名大券の持分または最終無記名券面との交換が不当に留保または拒絶された場合を除き、交換日以降、支払期日を迎えた利息、元金またはその他の金額の支払を受ける権利を有しない。

恒久無記名大券の元金、利息（もしあれば）またはその他の金額の支払は、証明書を要さずに、ユーロクリアおよび/またはクリアストリームを通じて行われる。

恒久無記名大券は、交換事由（以下に定義する。）が発生した場合にのみ、その全部（一部は不可）を利札付の最終無記名券面と（手数料なしで）交換される。「交換事由」とは、（ ）債務不履行事由が発生し、継続しているとき、（ ）ユーロクリアおよびクリアストリームの双方が、連続する14

日間業務を停止し（法律等に基づく休日を理由とする場合を除く。）、恒久的に業務を停止する意向を表明し、もしくは実際に恒久的に業務を停止した旨の通知をCACIBが受け、かつ、いずれの場合も後継の決済機関がないとき、または（ ）CACIBの所在地における法改正により、本社債が最終無記名券面の様式の本社債により表章されていたなら被らなかつたであろう、不利益な税務効果をCACIBが被るかもしれないもしくは被ることとなるときをいう。CACIBは、交換事由が発生した場合、本社債の所持人に対し、上記「9 通知」に従い直ちに通知を行う。交換事由が発生した場合、（かかる恒久無記名大券の持分の所持人の指示に従い行為する）ユーロクリアおよび/またはクリアストリームは、主支払代理人に対し交換請求の通知を行うことができ、上記（ ）に規定される交換事由が発生した場合には、CACIBも主支払代理人に対し交換請求の通知を行うことができる。かかる交換は、主支払代理人が最初の当該通知を受領した日から45日以内に行われる。

次の文言が、すべての無記名式社債およびかかる無記名式社債に関連するすべての利札に記載される。

「本証券を保有する合衆国人は、内国歳入法（その後の改正を含む。）第165条(j)および第1287条(a)に定める制限を含む合衆国所得税法上の制限に服する。」

上記文言に言及された条文は、合衆国の本社債の所持人が、一定の例外を除き、無記名式社債または利札に関する損失を税務上控除することができず、また、かかる社債または利札に係る売却、処分、償還または元金の支払による利益について譲渡益課税の適用を受けることができない旨を定めている。

恒久無記名式の大券により表章される本社債はその時点におけるユーロクリアまたは（場合により）クリアストリームの規則および手続に従ってのみ、これを譲渡することができる。

(5) 代理人

(a) 一般事項

支払代理人およびその当初の所定の事務所は、以下の通りである。

支払代理人

CACEISバンク ルクセンブルグ支店

(CACEIS Bank, Luxembourg Branch)

ルクセンブルグ L-2520、アレ・シャファー 5 番

(5, Allée Scheffer, L-2520 Luxembourg)

CACIBは、以下のすべての条件を満たす場合には、代理人の指名を変更もしくは終了させる権利および/または追加のもしくはその他の代理人を指名する権利および/または代理人の所定の事務所の変更を承認する権利を有する。

() 主支払代理人を常置すること

() ヨーロッパ大陸内の管轄区域に支払代理人を常置すること

変更、終了、指名または移行は、上記「9 通知」に従って、本社債の所持人に対する30日以上の事前の通知がなされた後にのみ（支払不能の場合には直ちに）効力を生じるものとする。

代理人は、代理契約に基づき職務を行う際に、CACIBの代理人としてのみ職務を行い、本社債の所持人または利札の所持人に対して義務を負わず、また、本社債の所持人または利札の所持人と代理または信託の関係を有しない。代理契約には、代理人が合併もしくは変更した事業体、代理人が統合した事業体または代理人が承継者たる代理人となるためその資産のほぼすべてを譲渡した事業体を許可する条項も含まれている。

(b) 計算代理人

CACIBは、本社債が未償還である限り、1名以上の計算代理人を常置するものとする。本社債に複数の計算代理人が選任される場合、本社債の要項における計算代理人に関する言及は、各計算代理人が本社債の要項の規定に従いそれぞれ職務を果たすものと解釈される。

計算代理人が代理人として行為できないもしくはそのつもりがない場合、または計算代理人が本社債の要項もしくは計算代理契約により課される職務もしくは義務の遂行に失敗した場合、計算代理人は速やかにCACIBおよび代理人に通知するものとし、CACIBは、(下記記載の市場に積極的に参入している事務所を通じて活動している)計算代理人により行われる計算または決定に最も密接に関連している銀行間市場(または適切な場合、金融、スワップもしくは店頭指数オプション市場)に従事している大手銀行または金融機関をその代理として指名するものとする。計算代理人は、承継者を指名することなしにその職務を退くことはできない。

疑義を避けるため付言すると、上記規定は、あらゆる社債に関して、CACIBが計算代理人として行為するよう関連会社を指名することを妨げるものではない。

計算代理人が何らかの理由で利息計算期間における利率または利息を決定または計算しない場合、CACIBがその行為を行う(またはそれに代わり代理人を指名する)ものとし、かかる決定および計算は、計算代理人によりなされたものとみなされる。その際、CACIBは、すべての状況において、自らの意見でその行為を行うことができ、また他のあらゆる点において誠実かつ合理的とみなされる方法により行為する範囲において、上記「1 利息」および「3 支払」の規定を、必要な修正を加えて適用するものとする。

CACIBは、計算代理契約に従いあらゆる時点において計算代理人の指名を変更または取り消す権利を留保する。ただし、本社債の要項により必要とされる場合で、計算代理人が常に存在するときに限る。計算代理人の指名の取消に係る通知は、上記「9 通知」に従い本社債の所持人に通知される。

社債の各シリーズに関連して、計算代理人(それがCACIB、関連会社またはその他の事業体であるかを問わない。)は、CACIBの代理人としてのみ職務を行い、本社債の所持人または利札の所持人に対して義務を負わず、また、本社債の所持人もしくは利札の所持人と代理または信託の関係を有しない。

計算代理人は、CACIBの同意を得て、適切と認められる第三者に義務または職務を委任することができ、かかる委任による決定または計算は、計算代理人による決定または計算とみなされる。

「社債の概要」において、「関連会社」とは、ある事業体(以下「第一事業体」という。)に関して、第一事業体により直接的もしくは間接的に支配(以下に定義する。)されている事業体、第一事業体を直接的もしくは間接的に支配している事業体または第一事業体と共通の支配下にある事業体をいう。なお、ここで、「支配」とは、事業体の議決権の過半数の所有を意味する。

(c) 決定

別段の記載がある場合を除き、本社債の要項におけるすべての決定および計算は計算代理人によってなされる。

本社債の要項に従ってCACIBおよび/または計算代理人によってなされた決定、判断または修正は、適用される法律により認められる範囲において、明確な定めがない限り、(明白な誤りがある場合を除き)最終的なものであり、CACIB、代理人および本社債の所持人に対して拘束力を有する。

とりわけ、上記「1 利息」および「2 償還および買入れ」に記載される規定のために、付与、表示、行為または取得される証明書、連絡、意見、決定、計算、引用および判定は、代理人もしくは

は（該当する場合）計算代理人またはCACIBにより成されたか否かにかかわらず、適用される法律により認められる範囲において、（明白な誤りがある場合を除き）CACIB、主支払代理人、計算代理人（該当する場合）、その他支払代理人ならびにすべての本社債の所持人および利札の所持人に対して拘束力を有し、また、かかる規定に従った権限、義務および裁量の行使または不行使に関して、CACIB、本社債の所持人または利札の所持人に対して負う責任は、（明白な誤りがある場合を除き）主支払代理人または（該当する場合）計算代理人に対しては帰属しない。

本社債の要項に従い決定、判断または修正を行う際、CACIBおよび/または計算代理人は、個別の本社債の所持人（その数を問わない。）に特有の状況により発生する利益を考慮せず、とりわけ、特定の地域もしくはその政治的地域区分における裁判管轄にいかなる目的により住居を定めもしくは居住し、またはそうでなければ関係もしくは属することに起因する個別の本社債の所持人（その数を問わない。）についての決定の結果を考慮しないが、考慮しない要素はこれに限られない。また、計算代理人または本社債の所持人は、CACIB、計算代理人またはその他の者より、個別の本社債の所持人に対する課税上の取扱いに係る決定に関する補償または支払を請求する権利を有しない。

本社債の要項に別段の定めがある場合を除き、CACIBまたは計算代理人は、その単独の絶対的な裁量により行為する権利を有し、誠実に行為をするものとする。

（6）追加発行

CACIBは、本社債の所持人または利札の所持人の同意を得ることなく、本社債と同じ要項の社債、または初回の利息額および利払日を除くすべての点において本社債と同じである社債を随時成立させ発行し、かかる社債を未償還の本社債と統合して単一のシリーズとすることができる。

【募集又は売出しに関する特別記載事項】

銀行再生および破綻処理に関する欧州およびフランスの法律に基づき、本社債は強制的な削減または株式転換の対象となる可能性がある。

金融機関および投資会社の再生および破綻処理に関するEU全体にわたる枠組みを設定し、欧州議会および理事会による2019年5月20日付指令（EU）第2019/879号によって改正された指令第2014/59/EU号（以下「銀行再生・破綻処理指令」または「BRRD」という。）は、健全性を欠くまたは破綻した関連する事業体に十分早くかつ迅速に介入する、信頼できる手法一式を当局に提供するため、複数の立法文書によってフランスにおいて施行された。

BRRDに定められる意味および条件においてクレディ・アグリコル・CIBが破綻に陥っている、または陥る可能性があるとして判断された場合で、関連する破綻処理当局がBRRDの破綻処理手法（事業売却、承継機関の設立、資産分離またはベイルインなど）のいずれかまたはそのうちのいくつかを適用する場合、クレディ・アグリコル・CIBの資産の売却による不足は、かかる事業体の無担保債権者の特定の請求権の未払額の部分的な減額（場合により、本社債を含む。）、または最悪の場合のシナリオでは、ゼロへの減額につながり得る。クレディ・アグリコル・CIBの無担保債権者の請求権（場合により、本社債を含む。）はまた、通常の倒産処理手続における請求権の階層に従って、株式またはその他の所有権の商品に転換される可能性がある。株式およびその他の商品もまた、将来の消却、譲渡または希薄化（かかる減額または消却は、最初に普通株式等ティア1商品で行われ、その後減額、消却または転換はその他ティア1商品で、次にティア2商品およびその他の劣後債務、そして適格債務で行われる。）の対象となる可能性がある。関連する破綻処理当局はまた、未払いの無担保債務証券（場合により、本社債を含む。）の条件の変更（満期の変更など）を求める可能性もある。

破綻リスクの存在するクレディ・アグリコル・CIBの破綻処理を進めるための公的財政支援は、ペイルイン手法を含む上記の破綻処理手法を評価および活用した後で、最終手段としてのみ、財政の安定を維持しつつ可能な限り最大限に使用される。

結果として、BRRDに基づく権限の行使またはかかる行使の提案は、本社債の所持人の権利、彼らの本社債への投資に係る価格もしくは価値および/またはクレディ・アグリコル・CIBが本社債に基づく債務を満足させるという能力に重大な悪影響を与える可能性がある。

第3 【第三者割当の場合の特記事項】

該当事項なし

第4 【その他の記載事項】

発行登録追補目論見書の表紙には、CACIBの名称およびロゴ、本社債の名称、売出人および売出取扱人の名称ならびにイメージ図を記載する。また、発行登録追補目論見書の表紙裏面に、以下の文言を記載する。

「クレディ・アグリコル・コーポレート・アンド・インベストメント・バンク 2025年7月17日満期米ドル建社債（グリーンボンド）（以下「本社債」といいます。）の元利金は米ドルで支払われますので、日本円と米ドル間の外国為替相場の変動により影響を受けることがあります。」

「（注）発行会社は、他の社債の売出しについて訂正発行登録書を関東財務局長に提出することがありますが、かかる他の社債の売出しに係る目論見書は、本目論見書とは別に作成および交付されますので、本目論見書には本社債の内容のみ記載しております。」

さらに、発行登録追補目論見書の表紙裏面直後に以下の内容が記載される。

クレディ・アグリコル・コーポレート・アンド・インベストメント・バンク(以下、「CACIB」といいます)が発行する「グリーンボンド」は、投資家の皆様に、環境にやさしい経済・社会の発展に貢献する企業・プロジェクトに融資するCACIBをサポートする機会を提供します。



- 気候変動は、私たち人類が、今後数十年間にわたって対処しなければならない、世界が直面する最も大きな課題の一つです。
- より炭素効率が良い、つまり環境にやさしい社会に変えていくために必要な資金は、各国政府の財務能力を大幅に超えています。巨額の資金が必要となる政府に対し、民間セクターが助けとなることが重要です。
- CACIBのグリーンボンドは、国連責任投資原則^{※1}を採択し、環境・社会・ガバナンス(ESG)を投資決定プロセスに取り入れた、すべての投資家に関心を持っていただける商品です。

※注1：国連責任投資原則とは、2006年にアナン国際連合事務総長が金融業界に提唱したイニシアティブで機関投資家の投資決定プロセスにおいてESG基準(=環境・社会・ガバナンスすべての面での全体的な評価)を反映するための考え方を示した原則を指します。

グリーンボンド

グリーンボンドにより調達された資金は、グリーン・ポートフォリオに充当され、CACIBによる環境にやさしい経済・社会への貢献を可能にします。



本社債の調達資金の同額または相当額は、以下に示す1つ以上の適格カテゴリーへの新規または既存の投融資(以下「適格グリーン資産」といいます)のファイナンスまたはリファイナンスに充当することを意図しています(以下こうした資金使途をもつ社債を「グリーンボンド」といいます)。

▶ 適格カテゴリー

- 再生可能エネルギー
- クリーン輸送
- グリーン・ビルディング
- 廃棄物および水資源の管理
- エネルギー効率
- 持続可能な農業および森林管理

クレディ・アグリコル・グループの事業体(クレディ・アグリコル・エス・エー、CACIB、クレディ・アグリコル地域銀行、それらの子会社およびリファイナンス・ピークル)が保有する全ての適格グリーン資産により構成されるポートフォリオをグリーン・ポートフォリオといい、CACIBが保有する適格グリーン資産により構成されるポートフォリオをCACIBグリーン・ポートフォリオといいます。

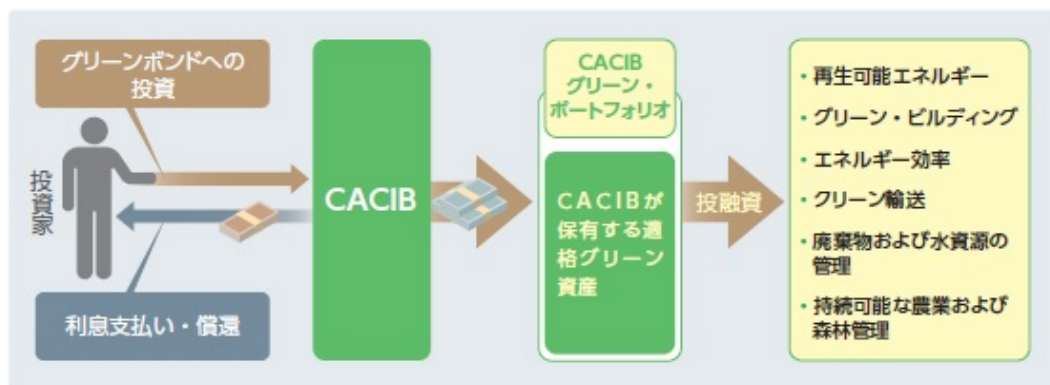
詳細は、クレディ・アグリコル・グループのウェブサイト(<https://www.credit-agricole.com/en/finance/finance/debt>)にあるグリーン・ボンド・フレームワークに記載しています。

グリーン・ボンド・フレームワークは国際資本市場協会により公表されているグリーンボンド原則(2018年版)(以下「GBP」といいます)に基づいています。グリーン・ボンド・フレームワークは、GBPの更新またはクレディ・アグリコル・グループの活動の進展を反映するため、今後さらに更新または拡張されることがあります。


クレディ・アグリコル・グループはグリーン・ボンド・フレームワークに対するセカンドオピニオンをヴィジオアイリスに依頼しています。当該セカンドオピニオンはグリーン・ボンド・フレームワークに関し環境面での貢献およびGBPへの適合状況を評価するものであり、クレディ・アグリコル・グループのウェブサイト(<https://www.credit-agricole.com/en/finance/finance/debt>)にてご覧いただけます。

CACIBは、グリーンボンド発行による調達資金の同額または相当額を上記に記載された資金使途通り(または、実質的にその通りに)充当することを意図しています。適格グリーン資産へのかかる同額または相当額の充当がされなかった場合、適格グリーン資産へ充当されなかった金額は内部の一般方針に従って使用するが、可能な限りグリーン債投資に使用されます。

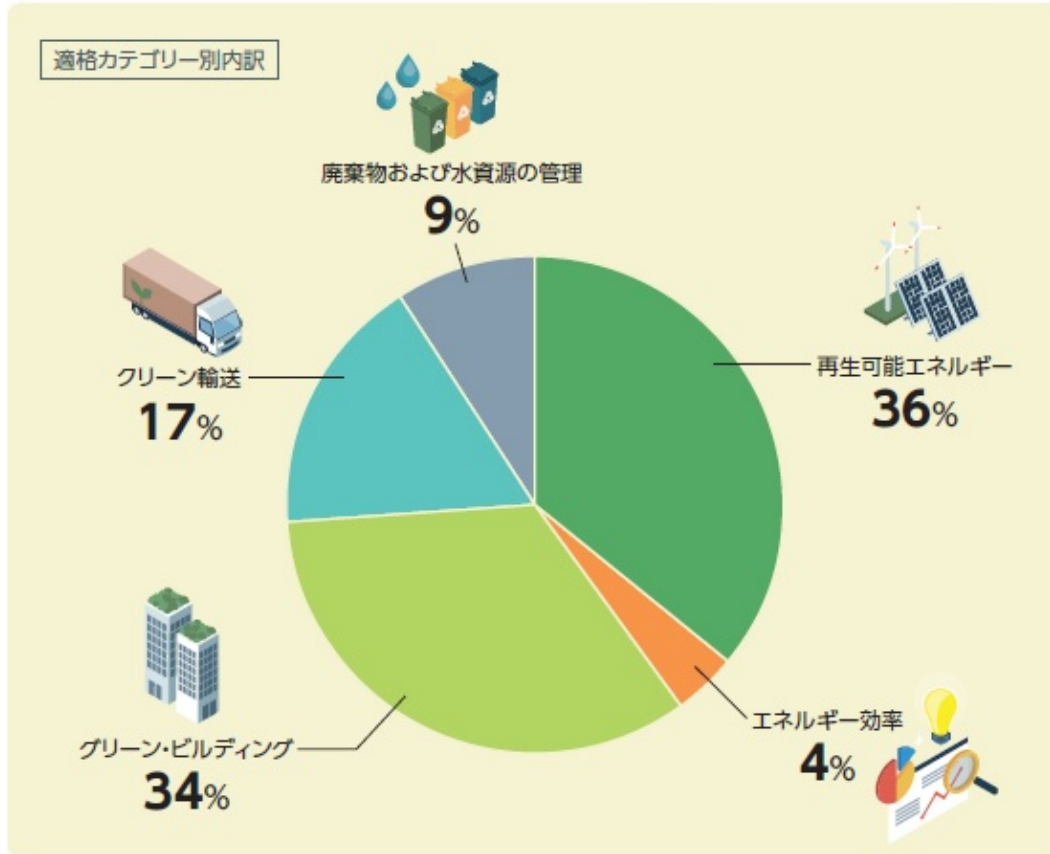
【グリーンボンドの仕組み】



CACIB グリーン・ポートフォリオ

 CACIB グリーン・ポートフォリオとは、CACIBが保有する適格グリーン資産により構成されるポートフォリオをいいます。

CACIB グリーン・ポートフォリオ 2019年6月末現在：適格カテゴリー別



クレディ・アグリコル・グループのウェブサイトには、毎年、クレディ・アグリコル・グループの事業体が発行し、その調達資金の同額または相当額が新規または既存の適格グリーン資産のファイナンスまたはリファイナンスのために用いられる社債(以下「クレディ・アグリコル・グループ・グリーンボンド」といいます)の資金用途の詳細、およびグリーン・ポートフォリオに含まれる適格グリーン資産の環境インパクトを説明した報告書が公表される予定です。

また、クレディ・アグリコル・グループは、グリーン・ポートフォリオの大幅な変更が生じた際には、その旨を公表することもあります。加えて、クレディ・アグリコル・グループ・グリーンボンドの主要内容に関しては、クレディ・アグリコル・エス・エーの年次報告書の作成を通じ監査法人による監査も行われます。

適格グリーン資産のプロジェクト実例



プロジェクト実例 ①

新エネルギーへの移行資金の提供: Phoenix III

資産:

298の太陽光発電所で構成されるポートフォリオ(発電量68.4 MW)

所在地:

フランス

稼働開始時期:

発電所稼働中

金額:

2億5千万ユーロ(そのうち50%をクレディ・アグリコル・グループがアレンジしました)

概要:

再生可能エネルギー生産企業の Teneqie 社が保有する投資ビークルである Terres d' Energie 社と Credit Agricole Pyrénées Gascogne が Region Provence-Alpes-Cote d' Azur の 30 か所を含むフランス全土で 800 超の発電所を運営。総設備容量は 430MW (2019年7月現在)。

複数のクレディ・アグリコル・グループ企業が協働し、再生可能エネルギープロジェクトをサポートします。本リファイナンス事業は 13,000 戸近くの家庭の電力需要を満たします。

また、本プロジェクトは Unifergie、CACIB、LCL、及び Regional Bank Alpes Provence で負債の 50% を負担し、グループ企業間の緊密な協力関係を表象しています。

適格グリーン資産のプロジェクト実例



イメージ写真

プロジェクト実例 ②

台湾で最大の洋上風力ファイナンスプログラム: 雲林

 資産: 洋上風力発電施設 (発電量640MW)	 所在地: 台湾	 稼働開始時期: 2020年にサービス 開始予定	 金額: 27億米ドル相当 (855億台湾ドル)
---	--	---	---

概要:

本洋上風力発電プロジェクトは wpd (73%) と双日主導の日本のコンソーシアム (27%) によって開発されています。wpd は、陸上および洋上の 10 区域にまたがり、総計 1.6GW の風力発電プロジェクトのポートフォリオを持つ再生可能エネルギー企業です。

本プロジェクトの所在地は台湾の雲林県です。発電設備は水深が 7~35m の 8~11km 沖合の洋上に設置され、シーメンス社製の 8MW 風力タービンジェネレーターを 80 機使用します。

本プロジェクトは台湾で 2 番目の洋上風力発電プロジェクトで、同国最大となる 640MW の計画発電容量を誇ります。

2019 年 5 月 30 日に、CACIB は「プロジェクト雲林」を成功裏にブッククローズし、雲林沿岸に位置する 640MW の洋上風力発電所の建設と運営のために必要なグリーンフィールド資金を調達しました。

「本社債への投資にあたっての留意事項」

< リスク要因 >

各投資家は、本社債に投資を行う前に、下記の投資上考慮すべき事項を、本書に含まれるその他の情報と同様に留意すべきである。投資に関する決定を行う場合、本社債に関する長所とリスクを含む、本社債の発行会社および本社債の売出しの条件に関して自分自身で検討し、そのみに依拠しなければならない。以下に記載されているリスクのみが、本社債に影響を与え得るものではない。同様に、発行会社が本書日付現在において知るところではない別のリスクが発行会社の業務、財務状態または業績に悪影響を与える可能性がある。本社債の市場価格は、一つまたは複数のそれらのリスクまたは要因によって下落する可能性があり、本社債への投資の一部または全部が失われる可能性がある。

< 本社債に関するリスク要因 >

本社債の市場価格が変動するリスク

本社債の市場価格は、米ドル金利およびその水準の変化等の影響を受けて変動する。このため、途中売却する場合の価格が購入時の価格を下回るおそれがある。

為替相場が変動するリスク

本社債の円換算した価値は、為替相場が変動することにより、円高になる過程では下落し、逆に円安になる過程では上昇する。期中に受け取る利子・売却時あるいは償還時の元本は米ドル建であり、為替相場の状況によっては為替差損が生じるおそれがある。

信用リスク

本社債の発行会社等の信用状況に変化が生じた場合、本社債の市場価格が変動することにより売却損が生じるおそれがある。本社債の発行会社等の信用状況の悪化等により、償還金や利子の支払が滞ったり、支払不能が生じ、投資額の一部または全部を失うおそれがある。

本社債の流動性に関するリスク

本社債は、市場環境の変化により本社債の流動性（換金性）が著しく低くなった場合、売却することができない可能性がある。また本社債を売買する流通市場が十分に整備されていないため、売却することができないかまたは購入時の価格を大きく下回る価格での売却となるおそれがある。

税務・会計リスク

本社債を購入したときの税務・会計処理方法に関して、新たな解釈・法令等の改正等が行われた場合、当初予定していた経済効果が得られないことがある。」

第二部 【公開買付けに関する情報】

該当事項なし

第三部 【参照情報】

第1 【参照書類】

会社の概況及び事業の概況等法第5条第1項第2号に掲げる事項については、以下に掲げる書類を参照すること。

1 【有価証券報告書及びその添付書類】

事業年度（令和元年12月期）（自 平成31年1月1日 至 令和元年12月31日）
令和2年5月1日関東財務局長に提出

2 【四半期報告書又は半期報告書】

該当事項なし

3 【臨時報告書】

該当事項なし

4 【外国会社報告書及びその補足書類】

該当事項なし

5 【外国会社四半期報告書及びその補足書類並びに外国会社半期報告書及びその補足書類】

該当事項なし

6 【外国会社臨時報告書】

該当事項なし

7 【訂正報告書】

該当事項なし

第2 【参照書類の補完情報】

上記に掲げた参照書類としての有価証券報告書の「事業等のリスク」に記載された事項について、当該有価証券報告書の提出日以後、本発行登録追補書類提出日（令和2年7月10日）までの間において重大な変更は生じておらず、また、追加で記載すべき事項も生じていない。

また、当該有価証券報告書には将来に関する事項が記載されているが、本発行登録追補書類提出日（令和2年7月10日）現在、当該事項に係るCACIBの判断に変更はなく、新たに記載する将来に関する事項もない。

第3 【参照書類を縦覧に供している場所】

該当事項なし

第四部 【保証会社等の情報】

該当事項なし